

令和元年度 事業報告書

I . 松山紅梅会・法人関連

【令和元年度まとめ】

今年度は「第7期松山市高齢者福祉計画・松山市介護保険事業計画」に基づく「(仮称) 特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト」の申請・建設準備に多くを費やした1年となった。

造成・建築については令和元年11月頃より本格的に開始されたが、当初の令和2年3月末の開設が令和2年10月中開設への延期が認められたため、年度をまたいでの準備期間となり、法人の中・長期的計画の中で目標としている「ごちゃまぜ福祉」計画の基盤となる一步を踏み出した1年となった。

又、平成27年度より「働きたいと思われる組織」「働き続けたいと思える組織」を目指し、職員主導で発足してきた法人の柱となる「共育委員会」「福利厚生委員会」「PR・採用委員会」「キャリアアップ委員会」4つの委員会においても、それぞれのセクションの目標に沿ってある程度の結果を残せたと感じている。

特に、梅本の里が求める介護知識と技術の習得を目指した、2年目を迎える法人独自のキャリアアップ制度「梅星制度」については、積極的に職員がチャレンジする姿勢も見られ、新たに11名の「一つ星」合格者と、昨年度「一つ星」に合格した職員が「二つ星」に挑み、7名の合格者を誕生させた。今後、段位が上がるシステムの構築には改良の余地も多いが、介護職員が最も分かり易い形で介護知識と技術が評価される取り組みとしては、職員のモチベーションの向上に繋がっており、概ね好評な結果を残している。

「PR・採用委員会」においては様々なSNSを活用することや、就職説明会等、直接対話ができる場へ積極的に参加することで、令和2年度の大学新卒採用3名に繋げることができている。又、新たに就職説明会でQRコードを活用することや、リクルート向けパンフレットを刷新することで、若者が興味を持ちやすい環境を整えた。ただ、年度後半より活動を開始する予定であった新規事業開設に向けての採用計画については、新規事業の工期延期に伴い、次年度当初への延期となっている。

これら明確な結果がみられた反面で、「共育委員会」では職員研修のマンネリ化の解消や他委員会とのタイアップ計画の目標達成に至らなかった。更に、年度の後半には全職員対象で実施予定の研修が、新型コロナウイルスの関係で中止を余儀なくされるなど不運にも見舞われた。

又、「福利厚生委員会」においては「働き方改革」や「資格融資制度」を構築する中で、法的知識の習得に時間を要してしまったこともあり、目標達成に至らず課題を残している。

ただし、各委員会で課題に対する検証や議論が図れたことから、委員それぞれのスキルアップには繋がったことを感じる1年でもあった。

新規事業計画を中心とした1年であったが、これら法人の核となる委員会の取り組みを含め、法人が目指す「ごちゃまぜ福祉」を見据えた経営・運営、更には人材育成を図ることができたと感じている。

1. 事業概要

(1) 法人名

社会福祉法人 松山紅梅会

(2) 所在地

松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 法人の事業

第1種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
軽費老人ホーム(ケアハウス)	梅本の里	30名	平成 6年 4月 1日
介護老人福祉施設	梅本の里	59名	平成 7年 4月 1日
	梅本の里ゆにと	30名	平成 26年 8月 23日

第2種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
通所介護事業	梅本の里	55名	平成 6年 4月 1日
	梅本の里・小梅	45名	平成 23年 12月 26日
短期入所生活介護事業	梅本の里	11名	平成 7年 4月 1日
	梅本の里ゆにと	10名	平成 26年 12月 26日
在宅介護支援センター	梅本の里	—	平成 7年 4月 1日
訪問介護事業	梅本の里	—	平成 7年 10月 1日
認知症対応型共同生活介護事業	梅本の里	18名	平成 13年 5月 15日

公益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
居宅介護支援事業所梅本の里	居宅介護支援	平成 11年 9月 13日
松山市高齢者生き生き支援事業	生きがいデイ・家事援助	平成 12年 4月 1日
事業所内託児所梅本の里・小梅	事業所内託児所	平成 23年 12月 26日

収益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
—	太陽光発電の売電事業	平成 25年 4月 1日

2. 役員の構成

理 事	定数	6 人（現員 6 人、欠員 0 人）
監 事	定数	2 人（現員 2 人、欠員 0 人）
評議員	定数	7 人（現員 7 人、欠員 0 人）

3. 理事名簿

令和 2 年 3 月 3 1 日現在

	区分	氏名	職歴（公職含む）	役員の構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	理 事 長	亀 本 堯	元愛媛県社会福祉協議会 事務局長	○				
2	理 事	藤 久 敬 子	前梅本の里・小梅施設長	○				
3	理 事	杉 本 太 一	高齢者総合福祉施設 梅本の里統括施設長			○		
4	理 事	門 屋 征 洋	前公益社団法人認知症の人 と家族の会愛媛県支部代表	○				
5	理 事	福 地 民 子	前小野地区社会福祉協議会 会 長		○			
6	理 事	渡 部 誠	高齢者総合福祉施設 梅本の里事務局長					○

4. 監事名簿

	区分	氏名	職歴（公職含む）	役員の構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	監 事	八 木 繁 明	元連合愛媛事務局長					○
2	監 事	秋 川 裕 恵	秋川裕恵税理士事務所					○

5. 評議員名簿

	区分	氏名	職歴（公職含む）	役員の構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設 長	その 他	財務
1	評 議 員	立 川 百 恵	愛媛県生活協同組合連合会顧問				○	
2	評 議 員	野 村 和 男	元旧株式会社メルファム四国支社				○	
3	評 議 員	渡 部 克 彦	松山市議会議員		○			
4	評 議 員	宮 内 敏 浩	元小野地区社会福祉協議会会長		○			
5	評 議 員	谷 向 知	愛媛大学大学院医学系研究科教授	○				
6	評 議 員	仙 波 修	保険調査員		○			
7	評 議 員	松 岡 司 志	日本 A L S 協会				○	

6. 理事会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
H31.5.24	5/6	1. 平成 30 年度事業報告に関する件 2. 平成 30 年度決算報告並びに監事監査報告に関する件 3. 給与規程の改定（案）に関する件 4. 小規模特養（サテライト型）計画の設計契約に関する件 5. 事務局長人事に関する件 6. 評議員選任・解任委員会運営細則の改定（案）に関する件 7. 役員選任（理事・監事）候補者に関する件 8. 定時評議員会に関する件	1. 原案通り可決 2. 原案通り可決 3. 原案通り可決 4. 「宮田建築設計室」との契約で全理事一致の可決 5. 現事務局長渡部誠を令和元年 6 月から事務局長に昇格で全理事一致の可決 6. 全理事一致で原案通り可決 7. 退任意思を示された山之内理事を除く現理事 5 名と渡部事務局長を理事候補者に、現監事 2 名を監事候補にすることを可決 8. 原案通りで可決
R1.6.14	6/6	1. 令和元年度定時評議員会の日程変更に関する件	1. 開催日を令和元年 6 月 22 日に変更で書面にて可決
R1.6.22	6/6	1. 理事長の選定に関する件 2. 評議員選任・解任委員に関する件	1. 現理事長再任で可決 2. 現委員の渡部誠事務局長を解任し、野本浩二副施設長を選任することで可決
R1.8.13	6/6	1. 小規模特養・サテライト型計画地の造成工事業者選定に関する件	1. 原案通り可決
R1.9.12	6/6	1. 小規模特養・サテライト型建設工事工事業者の入札に関する件 2. 施設整備資金借入金融機関に関する件	1. 入札資格・方法・公告方法等、原案通りに可決 2. 全理事一致で、愛媛信用金庫からの単独融資にて可決
R1.10.8	5/6	1. 小規模特養・サテライト型建設工事入札業者選考に関する件 2. 予定地の境界確認・開発許可・農地転用等の費用に関する件	1. 入札参加申込 8 社に対して入札参加資格確認通知を行うことを可決 2. 施設整備予定地及び駐車場予定地の最終見積について全理事一致で可決
R1.10.30	6/6	1. （仮称）特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト新築工事の再入札に関する件	1. 入札参加申込があった 8 社による指名競争入札を行うことで可決
R1.11.18	5/6	1. （仮称）特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト新築工事請負契約に関する件	1. 新築工事入札結果の報告に基づき、『株式会社杉野工務店』と工事請負契約を交わすことで可決

R2. 1. 15	6/6	1. 定款変更（案）に関する件 2. 定款施行細則変更（案）に関する件 3. 評議員会の開催に関する件	1. 新築工事予定地の登記手続きが完了したことに基 づく定款への資産追加を 行うことを可決 2. 松山市指導監査口頭指摘 に基づく変更を可決 3. 定款変更（資産追加）の 議案について評議員会は 書面による同意をもって 決議を行うことを可決
R2. 3. 27	5/6	1. 令和元年度第 1 回補正予算（案）に 関する件 2. 令和 2 年度事業計画（案）に関する 件 3. 令和 2 年度当初予算（案）に関する 件	1. 原案通り可決 2. 原案通り可決 3. 原案通り可決

7. 評議員会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
R1. 6. 22	6/7	1. 平成 30 年度事業報告に関する件 2. 平成 30 年度決算並びに監事監査報告 に関する件 3. 任期満了に伴う役員（理事・監事） の選任に関する件	1. 原案通り可決 2. 原案通り可決 3. 現理事 5 名、新理事 1 名 （渡部誠）、現監事 2 名が 新役員として選任された
R2. 1. 23	7/7	1. 定款変更（案）に関する件	1. 新築工事予定地の登記手 続きが完了したことに基 づく定款への資産追加を 行うことを書面にて可決

8. 職員の状況

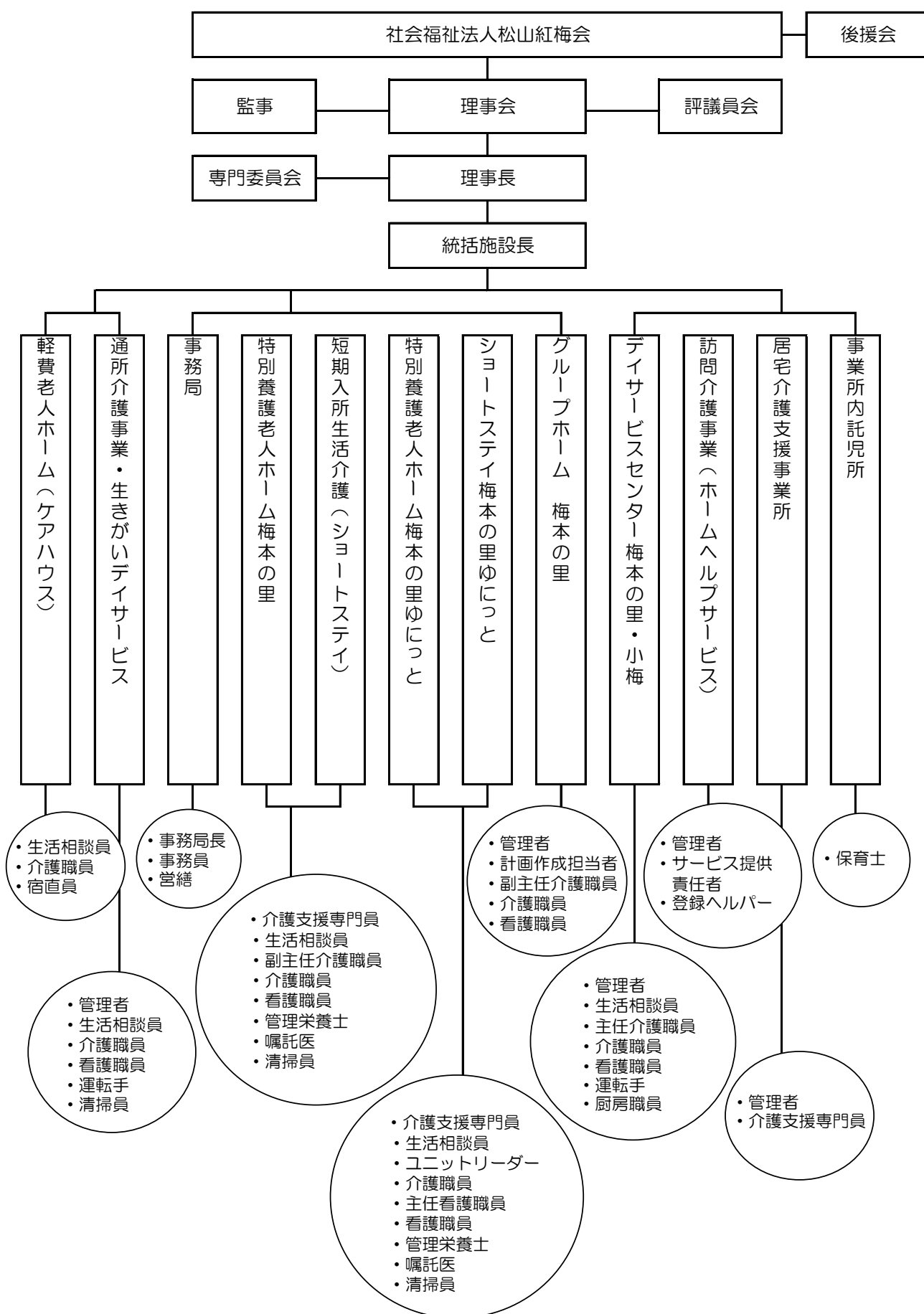
(令和2年3月31日現在)

		管 理 者	事 務 員	管 理 栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	生 活 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	計 画 作 成 担 当 者	サ ー ビ ス 提 供 責 任 者	そ の 他	合 計
軽費老人ホーム (ケアハウス)	実 人 数	1 兼務				2	(1)					3 (1)
特別養護老人ホーム (梅本の里)	実 人 数	1 兼務	3 (1)	1 兼務	1 兼務	1	18 (7)	3			2 (1)	30 (9)
特別養護老人ホーム (梅本の里ゆにっと)	実 人 数	1 兼務			1	1	15 (2)	3				21 (2)
通所介護事業 (梅本の里) 生きがいデイサービス事業	実 人 数	1				(1)	3 (7)	1 (1)			(2)	5 (11)
通所介護事業 (梅本の里・小梅)	実 人 数	1	(1)			1	2 (10)	(5)			(6)	4 (22)
短期入所生活介護 (梅本の里)	実 人 数	1 兼務					4					5
短期入所生活介護 (梅本の里ゆにっと)	実 人 数	1 兼務					5 (1)					6 (1)
訪問介護事業	実 人 数	1					(14)			3		4 (14)
居宅介護支援事業所	実 人 数	1			4							5
認知症対応型 共同生活介護事業 (グループホーム)	実 人 数	1					8 (3)		1 (1)			10 (4)
事業所内託児所	実 人 数										(5)	(5)
高齢者住宅与力団地	実 人 数										(1)	(1)
合 計	実 人 数	10	3 (2)	1	6	5 (1)	55 (45)	7 (6)	1 (1)	3	2 (15)	93 (70)

※ () 書きは非常勤職員

9. 運営組織体制

(令和2年3月31日現在)



10. 避難訓練

【第1回】

(1) 実施日時：令和元年 11 月 7 日（木）14 時 00 分より

(2) 実施内容：14：05 分、ゴミ捨て場付近より火災発生。宿直者が発見し、直ちに特養夜勤者に連絡。消火器により初期消火に努めるが延焼。ケアハウスの避難誘導に移る。連絡を受けた特養職員は 119 番通報と各部署への連絡を行う。館内放送にて避難誘導開始し、連絡を受けた各部署も避難誘導を開始。

(3) 実施規模

参加人数：夜勤・宿直職員（夜間想定）8 名、特養、ケアハウス、グループホーム

訓練方法：＜避難訓練＞特養・ケアハウス、グループホーム入居者を迅速に所定の避難場所へ誘導する。

(4) 講評・反省

訓練であった為、状態の悪い入居者の避難を控えての誘導で本来の人数より少ないがそれでも宿直者・夜勤者のみの避難誘導は時間を要するものであった。又、火災発生から各部署への連絡についても、限られた職員数での連絡と誘導の同時進行で時間を要することとなり各部署の初動にも影響した。これが実際の火災となると、慌てることも重なり、全利用者を避難させるにはさらなる時間が必要と感じた。

【第2回】

(1) 実施日時：令和元年 12 月 9 日（月）14 時 00 分より

(2) 実施内容：14：05 分、特養ボイラー付近より火災発生。特養職員が発見し、直ちに他職員に連絡。消火器による初期消火に努めるが延焼。連絡を受けた特養職員が各部署への連絡および 119 番通報を行い、全部署避難誘導に移る。

(3) 実施規模

参加人数：出勤職員（日中想定）、入所者、利用者（可能な限り）約 170 名

訓練方法：＜避難訓練＞特養・ゆにと・ケアハウス、グループホーム入居者を迅速に所定の避難場所へ誘導する。

＜消火訓練＞ケアハウス玄関前にて、水消火器による消火訓練を実施する。

(4) 講評・反省：

火災・震災が起こった場合、自らの身を守ることが最優先である。施設等での場合、入居者等の弱者が何十人、何百人と居るためその方たちを助ける職員の身を守らなくては次の行動に移ることもできない。今回の訓練では、初動の対応は迅速にできていたが、途中から訓練ありきな対応になってしまい、他部署への連絡、119 番通報での聞き取りに対し真剣な姿勢が感じられなかった。再度、各部署で訓練の重要性を伝え、有事に備えるように努めたい。

1 1. 協力医療機関

(1) 嘱託医師等の状況

医 師 名	中城 敏	中城 有喜	永山 雄一
診 療 機 関 名	砥部病院	砥部病院	永山内科・循環器内科
診 療 科 目	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ	内科・消化器科 循環器科
勤 務 の 形 態	非常勤 (隔週火曜日午後回診)	非常勤 (隔週火曜日午後回診)	非常勤 (隔週木曜日午後回診)

(2) 契約病院

病 院 名	医療法人 誠志会 砥部病院
所 在 地	伊予郡砥部町麻生 4 0 - 1
院 長 名	中城 敏
診 療 科 目	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ

病 院 名	医療法人社団 永山内科・循環器内科
所 在 地	松山市北梅本町 6 6 6 - 2
院 長 名	永山 晋也
診 療 科 目	内科・消化器科・循環器科

(3) 協力病院

病院名	院長名	所在地	診療科目
中川病院	中 川 泰 範	松山市南梅本町甲 58	内科・外科
石崎歯科医院	石 崎 一 成	松山市湊町 2 丁目 2-1	歯 科
永山歯科	永 山 晃 之	松山市北梅本町 666-1	歯 科
生島眼科	生 島 操	東温市野田 2 丁目 103-3	眼 科
宮内皮膚科クリニック	宮 内 俊 次	松山市北梅本町甲 899-4	皮膚科

12. 加入団体一覧

団 体 名	会長名	事務局所在地	年会費	所属
中予地区老人福祉施設協議会	木戸 敏満	松山市水泥町 405 番地 1 特別養護老人ホーム ていれぎ荘内 TEL (089) 975-5558	20,000 円	特養
愛媛県老人福祉施設協議会	菅原 哲雄	松山市持田町 3 丁目 8-15 愛媛県社会福祉協議会 地域福祉部福祉人材課内 TEL (089) 921-8566	10,000 円	ケア
			20,000 円	通所
			20,000 円	小梅
			124,800 円	特養
全国老人福祉施設協議会	石川 憲	東京都千代田区平河町 2-7-1 塩崎ビル 2 階 TEL (03) 5211-7700	20,000 円	通所
			20,000 円	小梅
			99,500 円	特養
愛媛県ホームヘルパー協議会	笠松美智子	松山市持田町 3 丁目 8-15 愛媛県社会福祉協議会地域福祉部内 TEL (089) 921-8912	15,000 円	訪介
愛媛県地域密着型サービス協会	河本 圭仁	松山市土居田町 621-1 TEL (089) 974-1213	20,000 円	GH
松山市社会福祉協議会	村上 博	松山市若草町 8 番地 2 松山市総合福祉センター内 TEL (089) 941-4122	5,000 円	特養
小野地区社会福祉協議会	青木 良一	松山市水泥町 972-1 ふれあいサロン小野 TEL (089) 976-1200	1,000 円	特養
愛媛県中小企業家同友会	平野 啓三 田中 正志 米田 順哉	松山市三番町 1 丁目 11 番 10 号 Issei301 号室 TEL (089) 948-9920	84,000 円	特養
松山市高齢者福祉連絡会	渡部 浩二	松山市小川甲 214 番地 1 特別養護老人ホームあわい内 TEL (089) 994-7787	10,000 円	特養
一般社団法人えひめ若年人材育成推進機構	服部 正	松山市湊町三丁目 4 番地 6 松山銀天街 GET! 4 階 TEL (089) 913-8686	30,000 円	本部

計 10 団体 499,300 円

13. 広告協賛一覧

日付	内容	金額
H31.5.14	県肢体不自由児者父母の会連合会 愛媛大会 協賛金	10,000 円
R1.8.15	福)松山市社会福祉協議会 若草福祉まつり 2019 広告掲載料	5,000 円
R1.9.3	葉佐池くらぶ 会報広告掲載料	30,000 円
R1.10.9	エン・ジャパン(株) 求人広告料	10,800 円
R2.1.27	(株)博報社 松山市高齢クラブ連合会広報誌 第 126 号 賛助掲載料	22,000 円

計 5 件 77,800 円

14. 職員研修一覧

	日 時	研 修 名	主 催 / 場 所	参 加 者
1	H31.4.19	尊厳ある週末ケアを目指して ～人それぞれの死を支援するために～	愛媛県在宅介護研修センター/ 同上	3
2	R1.5.10	がん在宅緩和ケア	在宅医療支援センター/ 松山市医師会館	1
3	R1.5.17	H31 年度第 1 回総会及び施設長研修会	愛媛県老人福祉施設協議会/ メルパルク松山	3
4	R1.5.19	これから求められるマネジメントについて	愛媛県介護支援専門員協会/ 生涯学習センター	1
5	R1.5.23	第 1 回 総会・施設長研修会	中予地区老人福祉施設協議会/ 愛媛県総合社会福祉会館	1
6	R1.5.23	「いい会社への道プロジェクト！」を 5 年間 推し進めてきた四国中央市の「三木特殊製紙」 の仕組みを体感せよ！	株式会社コンベックス/ 二番町ホール	2
7	R1.5.29	第 15 回愛媛県老人福祉施設大会	愛媛県老人福祉施設協議会/ 松山市民会館	5
8	R1.6.5	松山市在宅医療連絡会 南西地区 「認知症とその支援体制について」	松山市在宅医療支援センター/ 愛媛県医師会館	1
9	R1.6.9	第 1 回エンドオブライフ・ケア愛媛学習会	一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会/ 松山市男女共同参画推進センター	1
10	R1.6.10	民生委員との交流会	包括支援センター小野久米/ 鷹ノ子ふれあい館	2
11	R1.6.13	難病在宅ケア「重症筋無力症」	松山市在宅医療センター/ 愛媛県医師会館	1
12	R1.6.14	事例検討会	包括支援センター小野久米/ 松山リハビリテーション病院 9 階	5
13	R1.6.20	みちくさカフェ	包括支援センター小野久米/ 小野久米サロン	2
14	R1.7.10	第 1 回学習会 「連携ツール」をうまく活用しよう	松山市介護支援専門員協議会/ 松山医師会館	1
15	R1.7.18	第 1 回グループホーム交流会 「いざ！災害に備えて」～避難所運営体験を してみよう～	小野・久米地区グループホーム交流会/ 松山リハビリテーション病院 9 階 大会議室	3
16	R1.7.25	ケアマネ研修会 「自立支援の意味を問い直そう」	包括支援センター小野久米/ 松山リハビリテーション病院 9 階	3
17	R1.8.23	個別地域ケア会議の開催方法について	包括支援センター小野久米/ 松山リハビリテーション病院 9 階	4
18	R1.9.9	久米地区民生委員交流会	包括支援センター小野久米/ 鷹ノ子ふれあい館	3

19	R1. 9. 12	合同事例検討会	梅本の里・鷹ノ子病院・中川病院・おあしす/ 鷹ノ子病院	5
20	R1. 9. 13	第 68 回 ケアネット小野・久米 働き方を考える ～就業規則を知り、職場環境を見直そう～	松山市地域包括支援センター小野・久米地区/ 松山リハビリテーション病院 9 階大会議室	3
21	R1. 9. 12 ～9. 13	令和元年度訪問介護サービス提供責任者 研修	愛媛県介護実習・普及センター/ 愛媛県総合社会福祉会館	1
22	R1. 10. 12	中国四国肢体不自由児者父母の会連合会愛媛 大会	中国四国肢体不自由児者父母の会連合会連絡協 議会/ ホテルメルパルク松山	3
23	R1. 10. 23	息苦しさをコントロールしながら生活しよう	愛媛医療センター/ 愛媛医療センター	1
24	R1. 10. 29 ～10. 30	全国老人福祉施設研究会議 あなたが創る共生社会ー飛躍する令和の介護ー	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 愛媛県老人福祉施設協議会/松山市民会館	5
25	R1. 11. 7	相互研修報告会	一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会/ 愛媛県生涯学習センター4 階大研修室	1
26	R1. 11. 8 ～11. 10 R1. 11. 16 ～11. 17 R1. 11. 23 ～11. 24	主任介護支援専門員更新研修	愛媛県社会福祉協議会/ 愛媛県総合福祉会館	1
27	R1. 11. 23	第 2 階エンドオブライフ・ケア愛媛学習会	一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会/ 松山市男女共同参画推進センター	1
28	R1. 11. 27	中小企業に応募者を呼び込む”採用広報” ～ブログ・SNS・インターンシップで自社の ファンを造る～	一般社団法人えひめ若年人材育成推進機構/ 松山銀天街GET! 4 階 会議室	2
29	R1. 11. 27	「インターンシップ入門」 受入に伴う事後研修会	愛媛大学社会共創学部/ 愛媛大学城北キャンパス 共通教育講義棟 B	1
30	R1. 11. 28	第 8 回 経営フォーラム 持続可能な企業づくりで、愛媛の未来を夢あ るものに ～会社の大きさかたは違えども、置かれた場所 で咲かそう～	愛媛県中小企業家同友会/ ANA クラウンプラザホテル松山	4
31	R1. 12. 5	愛媛県老人福祉施設協議会 令和元年度施設長（特別）研修会	愛媛県社会福祉協議会/ リジェール松山	2
32	R1. 12. 7	‘19 介護塾 in 愛媛 ～高齢者の在宅生活を支える医療・介護連携 ～	特定非営利活動法人 愛と心えひめ/ 愛媛県男女共同参画センター多目的ホール	1
33	R1. 12. 9 ～12. 10	全国老人福祉施設研究会議 四国ブロックカンファレンス あなたが創る共生社会ー飛躍する令和の介護ー	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 四国老人福祉施設協議会 香川県老人福祉施設協議会/ 高松国際ホテル	2
34	R1. 12. 10	糖尿病とうまく付き合う為の食事	愛媛医療センター/ 愛媛医療センター	1
35	R1. 12. 13	第 69 回 ケアネット小野・久米 働き方を具体的に考える ～取り組み好事例からヒントを得よう～	松山市地域包括支援センター小野・久米地区/ 松山リハビリテーション病院 9 階大会議室	3
36	R1. 12. 16	ケアマネ研修会 「課題整理総括表の活用について」	包括支援センター小野久米/ 松山リハビリテーション病院 9 階	4
37	R1. 12. 21	認知症のある患者とその家族のケアと 意思決定支援	緩和ケア能力向上研修・がんセンター/ 四国がんセンター	1
38	R2. 1. 14	介護施設における看取りケア	愛媛県介護実習普及センター/ 愛媛県総合福祉会館 2 階「多目的ホール」	2
39	R2. 1. 15	松山市人権教育研究大会	松山市/ 松山市総合コミュニティセンターキャメリアホ ール	1
40	R2. 1. 18	介護福祉士実習指導者講習会	一般社団法人愛媛県介護福祉士会/ 聖カタリナ大学	1
41	R2. 1. 21	松山市高齢者福祉連絡会	松山市高齢者福祉連絡会/ 国際ホテル松山 本館 2 階	2

42	R2. 1. 24	第 2 回症例検討・研修会「難病在宅ケア」	松山市在宅医療センター/ 愛媛県医師会館	1
43	R2. 1. 31	認知症患者への適切な支援方法	愛媛県医療センター/ 愛媛医療センター	1
44	R2. 2. 1	難病 地域ケア研修会	中予保健所/ 中予地方局 7 階 大会議室	1
45	R2. 2. 2	愛媛県認知症ケア専門士会第 26 回研修会 【想いはときを超える】～人を、暮らしを、 知る、守る、繋がる～	愛媛県認知症ケア専門士会/ 松前町総合文化センター	1
46	R2. 2. 14	事例検討会	包括支援センター小野久米/ 松山リハビリテーション病院 9 階	5
47	R2. 2. 15	包括的地域福祉社会づくりセミナー 小さな活動が『子ども』と『地域』を育む	愛媛県・愛媛県社会福祉協議会/ 愛媛県総合社会福祉会館 2 階「多目的ホール」	1
48	R2. 2. 15	日本ケアマネジメント学会 in えひめ	愛媛県介護支援専門員協会/ 奥道後ホテル	1

合計 参加研修： 48 件 参加人数： 101 名

15. ヒヤリ・ハット及び事故発生状況

●ヒヤリ・ハット発生状況 <総件数 134件>

【ヒヤリ内容】

事故内容	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
転倒	1	0	3	0	0	0	3	0	7
転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0
滑落	2	1	0	0	0	0	0	0	3
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	2	1	0	0	0	0	0	0	3
外傷・内傷	6	0	4	0	5	0	0	0	15
所在不明	3	4	5	0	0	0	1	0	13
器物破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
服薬関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熱傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0
破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	19	3	10	1	2	3	4	0	42
与薬	2	0	0	0	0	0	0	0	2
内出血	25	1	19	0	0	0	0	0	45
紛失	0	3	0	0	0	0	0	0	3
遅刻	0	0	0	0	0	0	0	1	1
送迎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	60	13	41	1	7	3	8	1	134

【所見】

所見	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
表皮剥離	0	0	1	0	0	0	0	0	1
内出血	28	1	19	0	2	0	0	0	50
外傷	2	0	2	0	0	0	0	0	4
吸引	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	4	4	0	1	1	1	1	14
異常なし	27	8	15	1	0	0	0	0	51
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無し	1	0	0	0	4	2	7	0	14
合計	60	13	41	1	7	3	8	1	134

【場所】

場所	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
居室	23	8	13	0	4	0	0	0	48
食堂ホール	23	3	10	0	1	0	3	0	40
廊下	0	0	4	0	0	0	3	0	7
トイレ	4	0	2	0	1	0	0	0	7
脱衣場	5	0	4	0	0	0	0	0	9
浴室	4	0	8	0	1	0	1	0	14
その他	1	2	0	1	0	0	0	0	4
施設外	0	0	0	0	0	3	1	1	5
合計	60	13	41	1	7	3	8	1	134

●事故発生状況 総件数 < 4 1 3 件 >

【事故内容】

事故内容	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
転倒	59	12	22	6	53	6	12	1	171
転落	7	1	2	1	9	1	0	0	21
滑落	24	14	6	1	0	0	0	0	45
誤嚥	0	1	0	0	0	0	0	0	1
誤薬	1	0	0	1	0	0	0	0	2
異食	3	0	3	1	1	1	0	0	9
外傷・内傷	45	3	19	2	4	4	3	0	80
所在不明	8	7	1	0	0	0	4	0	20
器物破損	3	1	0	0	0	0	0	0	4
服薬関係	4	0	0	0	2	0	0	0	6
その他	19	5	2	1	0	3	1	0	31
破損	1	0	0	0	0	0	0	0	1
内出血	4	0	13	0	0	0	0	0	17
与薬	0	0	1	0	0	1	0	0	2
紛失	3	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	181	44	69	13	69	16	20	1	413

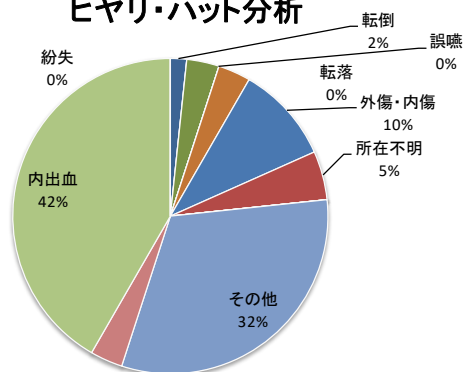
【所 見】

所見	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
表皮剥離	22	3	11	0	3	0	0	0	39
内出血	9	1	13	1	8	0	0	0	32
外傷	25	5	10	1	4	0	0	0	45
吸引	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	10	2	1	2	0	0	0	0	15
その他	9	5	3	4	0	10	5	1	37
異常なし	95	25	31	5	31	0	0	0	187
骨折	2	0	0	0	0	0	0	0	2
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無し	9	3	0	0	23	6	15	0	56
合計	181	44	69	13	69	16	20	1	413

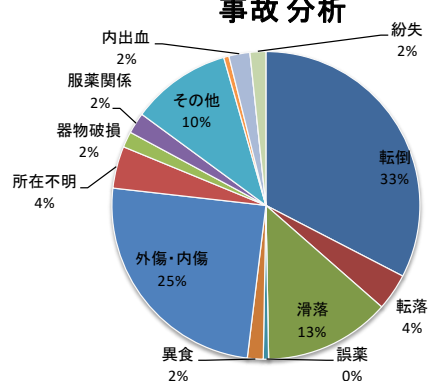
【場 所】

場所	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
居室	55	23	20	5	30	0	0	0	133
食堂ホール	97	14	23	6	26	12	7	0	185
廊下	6	0	11	1	0	0	6	0	24
トイレ	5	2	2	0	8	1	2	0	20
脱衣場	7	2	4	0	0	0	1	0	14
浴室	3	0	8	1	0	2	1	0	15
職員室	1	0	0	0	2	0	0	0	3
その他	7	3	1	0	3	0	0	0	14
施設外	0	0	0	0	0	1	3	1	5
合計	181	44	69	13	69	16	20	1	413

ヒヤリ・ハット分析



事故分析



《特養・ショート》

○ヒヤリハット報告数 特養：60件 ショート：13件

○事故報告書 特養：181件 ショート：44件

ヒヤリハット・事故報告総数は298件（前年度393件）となり、前年度より95件減の結果であった。その内の事故報告件数は225件（前年度295件）で70件減となっており、今年度においては事故・ヒヤリハットが全体的に減少している。その中において、転落・滑落・転倒だけを見ると、平成30年度の135件に対して121件で微減の結果で、予防に対する課題も残されている。重度認知症の入居者の徘徊が増加傾向にあり、所在確認等が厳しい状況が続くことが考えられるが、令和2年度も引き続き転倒等の事故防止に重点的に努めていく必要があると考えられる。その他に関しては、服薬関連の事故は5件に留まり、ここ数年で実践してきた「必ず防げる事故は防ぐ」という目標を徹底したことにより、職員に浸透してきた結果が減少傾向の成果として表れたと感じている。

●R1年度 特養リスクマネジメント委員会開催状況

R1年5月10日（金）	H31年4月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大事に至る事故は発生していないが、職員のミスによるテーブルのロックかけ忘れによる転倒、私物の紛失、センサーのイッチの入れ忘れの3件があり、未然に防げた事であるため、今後注意が必要。
R1年6月7日（金）	R1年5月のヒヤリハット、事故報告の検証 オムツ交換時に、職員のミスにより右上腕部を骨折させてしまう事故が1件発生。原因は無理な体位変換を行ってしまい、右上腕に負荷が掛かってしまった。施設による医療費の負担と家族への謝罪にて訴訟問題等には発生していないが、当事者の職員は当面の間介護職を外し、改めて、職員全員で事故の分析に臨み再発防止に努めた。
R1年7月16日（火）	R1年6月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大きな事故は見られなかったが、着脱時に不注意で爪が取れてしまう事故が1件起きている。また、毎月のようにセンサースイッチの入れ忘れが続いているため、注意していきたい。
R1年8月16日（金）	R1年7月のヒヤリハット、事故報告の検証 男性入居者1名の夜間転倒が3件と続けざまに起こっている。特に大きな事故にはなっていないが、夜勤者は特に注意が必要。また、今月もセンサースイッチの入れ忘れが2件あったため、引き続き気をつけていきたい。
R1年9月10日（火）	R1年8月のヒヤリハット、事故報告の検証 大きな事故は発生しなかったが、義歯関連の事故が2件続いたため、再度確認を徹底していきたい。また、居室でしりもちをついた事故の報告遅れが1件発生した。当事者の職員は4月入職の新人職員であったが、再発の無いように注意、指導を行っている。
R1年10月11日（金）	R1年9月のヒヤリハット、事故報告の検証 先月に引き続き義歯に関する事故が発生している。義歯の扱いが不十

	分であったため破損してしまう。今後口腔ケアの研修等も検討しながら職員全員で知識と技術を高めていきたい。転倒・滑落事故については以前からの同じ入居者が目立って転倒されているため引き続き注意が必要である。
R1 年 11 月 13 日(水)	R1 年 10 月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大きな事故は見られていないが、所在不明が 2 件発生している。2 件とも施設内での所在不明であったが、今後外に出てしまうことも考慮しながら見守りを強化していきたい。
R1 年 12 月 9 日(月)	R1 年 11 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落の事故が 13 件あり、今後も見守りの強化が必要。事故の原因としては不安定な歩行で徘徊される方が多くなっていることもあり、入居者同士の接触等で転倒されることも考えられるため、今後注意していきたい。
R2 年 1 月 10 日 (金)	R1 年 12 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落の事故が 8 件に減少している。特に大きく目立った事故等は発生しておらず、今後も防止に努めたい。
R2 年 2 月 14 日 (金)	R2 年 1 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落事故が 11 件発生。特に大事には至っていないが、2 名の徘徊される方が繰り返し転倒されている。今後も転倒が予測されるため未然に防げるように見守りを行っていきたい。
R2.年 3 月 13 日 (金)	R2 年 2 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落事故が 15 件発生。そのうち同じ入居者が 6 件と事故の半分を占めている。対策として、頭部を保護する帽子風のヘッドギアを装着するようにしケガの防止に努めている。今後も記録をしっかりと残り、行動パターン等の分析を行っていきたい。
R2 年 4 月 13 日 (月)	R2 年 3 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落事故が 8 件発生。件数は減少したが、ショートステイ利用者の方が食堂ホールで転倒され左大腿骨骨折により入院療養となっている。1 人での移動中で転倒された事故であったが、今後再発防止のため自力歩行できる方に対しての注意を怠らないようにしていきたい。

《ゆにっと特養・ゆにっとショート》

○ヒヤリ・ハット報告数 ゆにっと：41 件 ショート：1 件

○事故報告数 ゆにっと：69 件 ショート：13 件

ヒヤリハット報告総数 42 件、事故報告総数 82 件で、発生内容は 1 位：転倒・転落・滑落（41 件）、2 位：内出血（33 件）、3 位：外傷（25 件）となっている。昨年度より総数は減少しているが、依然として転倒や転落といった事故はほぼ横ばいの状態である為、転倒する恐れのある入所者に対してのリスク管理に対しては課題を残した。更に、転倒事故については同じ入所者が繰り返す傾向にあることから、見守りについての環境を強化する必要性が高くなっている。

又、外傷に関してもほぼ横ばいの結果となったことから、介助方法の見直し、安全な介助の心がけを強化しなければならない。

●R1 年度 ゆにっとリスクマネジメント委員会開催状況

R1 年 5 月 30 日（木）	H31 年 4 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落・滑落 3 件、内出血 2 件、外傷 1 件、所在不明 1 件、その他 4 件発生。特養下駄箱付近を歩いているのを発見。食事台車の出入り口の施錠がしっかりとできておらず、そこから離館したと思われる。夕方ゆにっと職員で対策について検討。施錠のダブルチェックを行い必ず施錠できているかの確認。また、所在確認の徹底を再度行う必要がある。
R1 年 6 月 25 日（火）	R1 年 5 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落 3 件、内出血 6 件、外傷 1 件、その他 3 件発生。徘徊をしており、いつも通りに椅子に座ろうとし座り損ねて転倒してしまった。いつも通りの行動を行っていた為、転倒しないだろうという考えをなくし、常に転倒のリスクがある事を再度考えながら支援していく必要がある。
R1 年 7 月 26 日（金）	R1 年 6 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落 3 件、内出血 7 件、外傷 2 件、誤薬 1 件発生。新規利用者が続けて入所し、混乱してしまっており別の方の薬を服用してしまった。顔と名前を必ず確認し、不安な場合は職員複数人での確認をする必要がある。
R1 年 8 月 21 日（水）	R1 年 7 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 1 件、内出血 5 件、外傷 6 件、異食 1 件発生。 職員が居室にて別利用者対応中にキッチンに置いてあった食器用洗剤を飲んでしまう。本人の「苦い」という言葉で発覚した為、どのような経緯で飲んだのかははっきりとわからないが、使用後は利用者の目の届かない場所への保管、常に見守りができる体制をとる必要がある。
R1 年 9 月 17 日（火）	R1 年 8 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落 2 件、内出血 2 件、外傷 2 件、異食 2 件、与薬 1 件、その他 1 件発生。 当日入浴の予定で貼り薬を脱衣室に置いていたが、体調不良により居室にて入浴介助者とは別の職員が更衣のみ行い、貼り薬を貼布し忘れた。

	その際、申し送りが不十分だった為、申し送りの方法等を再度見直す必要がある。
R1 年 10 月 20 日（日）	R1 年 9 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 2 件、内出血 2 件、外傷 1 件、所在不明 1 件発生。 夕食後、他入所者介助中に共同生活室に戻ると別入所者の居室にて臥床しているのを発見する。発見時、居室の方と二人で臥床しておりその居室の方が誘導していたと思われる。臥床の優先順位をしっかりと考え、今後の対策とする必要あり。
R1 年 11 月 21 日（木）	R1 年 10 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 5 件、外傷 2 件、所在不明 3 件、その他 1 件発生。 トイレ誘導の際、便座に座ってもらいその後、オムツ交換の依頼があった為、その場を離れてしまう。そのままトイレにいることを忘れ、長時間便座に座ったままにしてしまった。他職員が休憩中ということもあり、手薄になってしまっている時間帯ではあったが、別ユニットの職員や優先順位を決めたうえで行動する必要がある。
R1 年 12 月 18 日（水）	R1 年 11 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落 6 件、内出血 1 件、外傷 2 件、その他 4 件発生。 転倒・転落で同じ方が 3 件発生している。普段から常に徘徊をしている方だが、見守り不足により転倒している。次にどのような行動をするのかを念頭におき、介助を行っていく必要がある。
R2 年 1 月 29 日（水）	R1 年 12 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落 5 件、内出血 4 件、外傷 3 件、所在不明 1 件発生。 トイレ誘導後、別フロアに自走して行き、別の方の居室にて臥床していた。少しの間だが所在確認を怠ってしまったことが原因で、自走する方に対しては行動をしっかりと把握するとともに他の職員と連携を図りながら再発防止に努める。
R2 年 2 月 26 日（水）	R2 年 1 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落 5 件、内出血 2 件、異食 1 件発生。 食後トイレ誘導を行い、その後に食事の際使用したティッシュを異食している。異食の可能性のある方にも関わらず、食後にティッシュを片付けていなかった為、発生している。ティッシュに限らず不要な物は片づけをする。また、使用後は元の場所へ返却することを徹底する。
R2 年 3 月 19 日（木）	R2 年 2 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 5 件、外傷 3 件発生。 転倒 5 件のうち同じ方が 4 件立て続けに転倒している。時間帯はバラバラだが、他の方の介助中に起きている。また、職員の手薄な時間帯でもあり、見守りが不十分な時間帯に起きている。見守りのできる体制を早急に整え、難しい場合は別ユニットの職員と連携しながら再発防止に努める必要あり。
R2 年 4 月 20 日（月）	R2 年 3 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 1 件、内出血 2 件、外傷 2 件、その他 1 件発生。

	入所者が自分で腕を動かし、ベッド柵にぶつけた可能性がある。動くことがある事を前提にした対策を行っていけば防げる可能性がある為、各職員がリスクについて考えながら介助を行っていくよう再度指導する。
--	--

《グループホーム》

○ヒヤリ・ハット報告数 7 件

○事故報告数 6 9 件

ヒヤリ・ハット報告数 7 件（前年度 6 件）、事故報告数 69 件（前年度 37 件）、計 76 件で前年度と比較して 33 件の増の結果となり、ヒヤリ・ハット報告は主に内出血、事故報告は転倒・滑落・外傷等であった。

事故報告の大幅増の原因としては同一利用者の転倒件数が多く、その都度対策を検討し、注意して対応するが、落ち着かず動かれる状況において常時付き添うことが難しく、夜勤の一人対応となった状況や日中において別の対応をしている際に転倒するケースが多かった。

転倒・滑落が全体の 8 割を占めており、発生場所は居室内と食堂ホールでの発生がほぼ同数で、発生時間としては、夜間・日中の時間帯に関係なく起こり、発生状況として他の利用者の対応をする為に居室に入っている時や、他業務をしている時の発生がほとんどであることから職員の見守り体制に課題を残した。

次年度に向け、他業務にあたっている際の見守りが不十分とならないよう、職員同士の声掛けや極力一人業務にならない工夫をし、リスクの軽減を図ることを強化する。

《デイサービス》

（デイサービス梅本の里）

○ヒヤリ・ハット報告数 3 件

○事故報告数 1 6 件

ヒヤリ・ハット報告数 3 件（前年度 1 件）、事故報告数 16 件（前年度 24 件）、計 19 件（前年度 25 件）で、前年度と比較し 6 件減となった。（転倒・転落 6 件、外傷・内傷 4 件、滑落・膝折れ 2 件、不注意 2 件、与薬 1 件、その他 1 件）

病院受診が必要なケースは無く、大きな事故には至らなかったことは評価できるが、事故の中には職員の注意力不足や状況判断の誤りが原因であったケースもあり、意識するだけで防げる事故もあった。

転倒や滑落は 8 件（前年度 9 件）で、行動開始時の事故が多く、利用者の ADL や状態を把握していれば事前に行動を予測し、リスク回避ができたケースもあった。危険認知が低下している利用者も増えていることから、職員一人ひとりが利用者の運動機能や身体状況を把握することが重要と感じた。

改善策として、日々の検討会で利用者の身体状態や精神面の変化を情報共有し、予測できる事故の防止を事前に努める。又、事故が起きた場合はカンファレンスにて防止策を決定する。

(デイサービス梅本の里・小梅)

○ヒヤリ・ハット報告数 8 件

○事故報告数 20 件

ヒヤリ・ハット 8 件（前年度 12 件）、事故報告：20 件（前年度 32 件）、病院受診必要件数 1 件（前年度 1 件）の結果となっている。

前年度に比べ件数は減っているが、躓き・尻もち・方向転換時の転倒など、職員の注意力不足からのヒヤリ、事故に繋がるケースが多くあった。

小梅でのヒヤリ・ハット、事故の傾向としては、小梅のコンセプトである自己選択・自己決定により、利用者それぞれが機能訓練、脳トレ、職員手伝いなどを別の場所で活動的に実施していることから、職員の各フロアの見守りを強化しているが、些細な注意力不足で事故に繋がってしまっている。

事故に対しては、検討会でその時の状況検証と反省、対策を図っているが、今後も事故の減少に対して利用者の状態把握と情報共有を行い、危機管理の強化を図っていく。

《訪問介護事業》

○ヒヤリ・ハット報告書 1 件

○事故報告書 1 件

＜ヒヤリ・ハット報告内容＞

ヘルパーが時計を見間違え、利用者からの電話で遅れて活動した。

【対策】

ヘルパーは活動があることを自覚していたが、訪問までに時間があるため別の作業をしているときに時計を見間違え、訪問予定時刻まで 1 時間以上あると勘違いしていた。登録ヘルパーはほぼ毎日活動時間が異なっているため、今後間違いがないように携帯電話のアラームをセットすることを話し合った。また活動と活動の間があったり、夕方の方のみの勤務で業務開始までの時間が長いときは、複数の時計を確認するようにして、活動に備えることを確認した。

＜事故報告内容＞

入浴介助のためヘルパーが浴室で準備中、ご本人がリビングで立ち上がり、ふらついて尻もちをつく形で転倒。そのまま動けず救急搬送、診断の結果、右大腿骨頸部骨折で入院となる。普段の歩行には歩行器が必要だが、この時は使用されていなかった。（松山市に介護保険事故報告）

【対策】

日頃から室内で歩行器を使用されないことが多く、これまでの入院先でも何回も転倒されていたとのことを確認。事故発生時も注意し声掛けをしていたが、ヘルパーから離れた場所で歩行器を使用せず歩こうとされたことが要因となったことから、退院後のサービスでは入浴準備中は脱衣所に椅子を置き、ヘルパーの目の届くところで座って頂いている。

Ⅱ．介護老人福祉施設事業

「特別養護老人ホーム 梅本の里」

【令和元年度のまとめ】

1. 総評

伝達方法の見直しと改善を図り、業務遂行に対する組織力を向上させることで職員間のコミュニケーションの強化を目指したが、職員の退職や長期休暇、更には年度途中での相談員の異動が影響し、職員間のモチベーションが一時的に低下したため利用者へのサービス提供が不安定となった部分もあった。

一方で、職員の意識向上を目的としたアンケートと自己評価を実施し、円滑な業務遂行に繋がれた部分もあり、入居者の生活の質の向上については一部目標を達成している。

又、感染症対策については早い段階からマスクの着用、手指消毒、換気と除菌を意識付けして実施する事を徹底したことで大きな成果が見られ、今年度はインフルエンザ等の感染症が蔓延する事はなかった。

2. サービス目標

①基本介護の再確認

ポジショニング研修は福祉用具業者を招いて実践研修を2回開催し、ほとんどの職員が参加できたことで統一した新たな知識を身につける事が出来た。ただ、実践的に業務に継続して反映出来ていないことも多く、課題を残していることから、今後も定期的に研修を開催し、反復することで職員間で統一した知識と技術の意識付けが必要とされる。

又、梅本の里の介護知識と技術の統一を目指し、2年目を迎えたキャリアアップ制度の「梅星制度」にも積極的に職員がチャレンジしており、職員のモチベーションの向上に繋がっている。

②チームケアの強化

食事、リスク、排泄の各委員会の役割を明確にすることで、各リーダーが他職員に明確な指示ができ始め、チームとして機能することができた。ただ、各委員会である程度考え方がまとまってきてはいるが、職員の発信能力には差があり、満遍なく意見聴取ができる状況には至らず、各委員会リーダーを中心に活発な論議が交わせる環境を作ることが継続目標となった。

③職員意識の向上

今年度も職員個々の能力を組織的に高めることを目指し、職員に対して業務に対する課題と改善のアンケートを実施した。トイレのプライバシーや言葉遣い、食事介助時についての回答を求めた結果、トイレ使用時にはカーテンを閉めることの意識付け、食事時の利用者に対する姿勢や声掛けへの注意、言葉遣いへの配慮も意識付けすることができた。ただ、言葉遣いはまだまだ徹底されていない部分も見受けられることから、更なる言葉遣いへの意識付けと安全な食事介助の対応、個人プライバシーを常に意識する事は継続目標となった。

3. 設備・備品の見直し

目標に掲げていた寝台浴槽の改修については、新規事業計画に併せ備品の購入や改修を進めていくこととなり、現状維持にての対応となった。

又、ノーリフトケアについては「梅星制度」の研修の中でスライディングボードやシートの使用方法を学ぶことに留まり、実践には至っていない。

4. 利用率

予算編成時の特定入所枠 2 床を含める 61 床での目標 97% に対して 92.6% の結果となっているが、予算編成時に含めていた特定入所枠 2 床については行政からの指導があり、本来のショート床に含めることとなったため、今年度は特養 59 床の運営としている。59 床での利用率は 96.5% の結果で、毎月 1 ～ 3 名の入院者が発生した状況に対して空室利用に繋がられなかった事が影響し、目標達成には至らなかった。

(作成責任者：特別養護老人ホーム梅本の里 相談員 兵藤研也)

1. 事業概要

(1) 施設名 介護老人福祉施設 梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6,005.98 m² (ゆにっと・GH 併設)

建物 2,996.42 m² (鉄筋コンクリート造り 2 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	856.875 m ²	相談室	1 室	15.52 m ²
静養室	1 室	16.50 m ²	応接室	1 室	13.95 m ²
食堂兼 機能訓練室	3 室	423.46 m ²	洗濯室	1 室	41.40 m ²
浴室	1 室	69.30 m ²	介護材料室	3 室	72.31 m ²
脱衣室	1 室	35.91 m ²	事務室	1 室	98.1 m ²
便所	9 室	78.75 m ²	地域交流センター	1 室	81.9 m ²
医務室	1 室	16.50 m ²	ボランティア室	1 室	10.83 m ²
厨房	1 室	88.95 m ²	理美容室	1 室	20.79 m ²
介護職員室	2 室	50.14 m ²	その他 (廊下、階段等)		240.315 m ²
休憩室	2 室	23.72 m ²			

(4) 居室の状況 (ショートステイ部分含む)

区分	室数	床面積	一人当面積 A
個室	30 室	507.375 m ²	16.91 m ²
4 人部屋	10 室	349.50 m ²	8.74 m ²
計	40 室	856.875 m ²	12.24 m ²

2. 入所者の状況

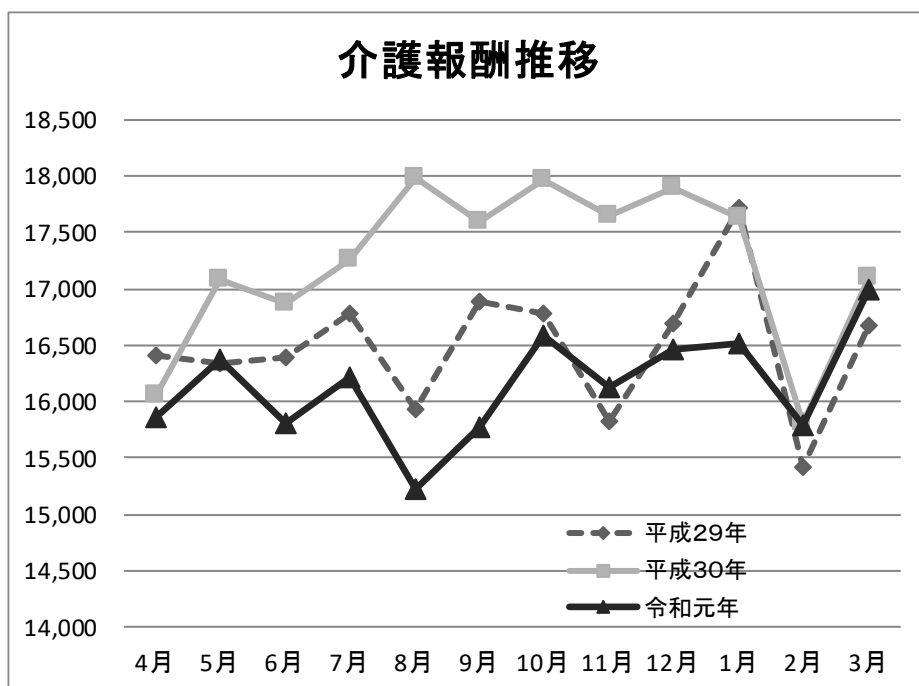
(1) 入所・退所状況

(定員59名)

	当月 1日	新規入所者				退所者						
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4	60	1			1			1		2		3
5	58			1	1							0
6	59	1			1							0
7	60				0			1		1		2
8	58	2		1	3					3		3
9	58	1			1					1		1
10	58		1		1			1				1
11	58	1	1		2					2		2
12	58	1	1		2					1		1
1	59	1			1					1		1
2	59	1			1					1		1
3	59				0					1		1
計	704	9	3	2	14	0	0	3	0	13	0	16

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位(千円)



「特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにと」

【令和元年度まとめ】

1. 総評

介護知識と技術の基本を身につけることを目標とし、統一した指導を実施したが、介護支援専門員の定着に至らなかった事や事業所内の職員異動もあり、業務の見直しや引継ぎに時間を要したことが影響し、徹底した職員教育には至らなかった。

又、2年前より取り組みを開始した24時間シートの更なる活用を目指したが、一部の活用に留まり、入居者のケアに活かしきれていない現状となり、多くの課題を残す結果となっている。

2. サービス目標

①24時間シートの活用方法の再度見直し

2年前より取り組んでいる24時間シートの活用は、年間で1名程度の作成に留まり、入居者の生活習慣の共有や生活リハビリに繋がれておらず、今後の活用についても多くの課題を残す結果となっている。

②人財育成

各ユニット間の情報共有の強化に努めたが、未だ「自分のユニットではない」という考えが払拭できず、各ユニット内だけで情報が止まることが多く、ゆにと全体での情報共有には課題を残している。又、伝達に対する研修への参加についても、職員異動の影響から業務指導を最優先としたため、全く参加することができなかった。

介護知識と技術の向上については、2年目を迎える「梅星制度」に職員が積極的に参加したことで、梅本の里が求める統一した介護知識と技術の習得に一定の効果をj得ているが、ここ2～3年の新採用職員にはスキルや法人の今後の方針への理解のバラツキがみられるため、人財教育については継続的取り組みが必要とされる。

3. 利用率

退所後の新規受け入れは円滑に行えたことや冬季の感染予防についても早めの定期的な換気と消毒を徹底することで、利用率に影響することはなかったが、年間を通じて長期入院者があり、空室期間が発生したことから利用率は96.5%の結果となり目標を1.5ポイント下回った。

(作成責任者：特別養護老人ホーム梅本の里ゆにと 相談員 仲村竜哉)

1. 事業概要

(1) 施設名 特別養護老人ホーム梅本の里ゆにと

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6,005.98 m² (特養・GH 併設)

建物 2,945.72 m² (鉄骨造一部鉄筋コンクリート造り地上3階建地下1階)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	576.92 m ²	備蓄倉庫	1 室	12.32 m ²
共同生活室・キッチン	4 室	201.0 m ²	洗濯室	1 室	24.03 m ²
浴室	6 室	93.13 m ²	汚物処理室	2 室	8.99 m ²
脱衣室	6 室	67.35 m ²	汚物集積室	1 室	13.46 m ²
便所	22 室	110.61 m ²	スタッフルーム	2 室	30.27 m ²
医務室	1 室	12.44 m ²	ゲストルーム	1 室	11.59 m ²
機能訓練室	1 室	12.55 m ²	霊安室	1 室	11.45 m ²
相談室	1 室	7.04 m ²	職員休憩室	2 室	27.07 m ²
介護材料室	1 室	6.1 m ²	レクリエーションホール兼会議室	1 室	220.91 m ²
リネン庫	1 室	7.2 m ²	その他		1491.29 m ²

(4) 居室の状況 (ショートステイ部分含む)

区分	室数	床面積	一人当面積 A
ユニット型個室	40 室	576.92 m ²	14.423 m ²

2. 入所者の状況

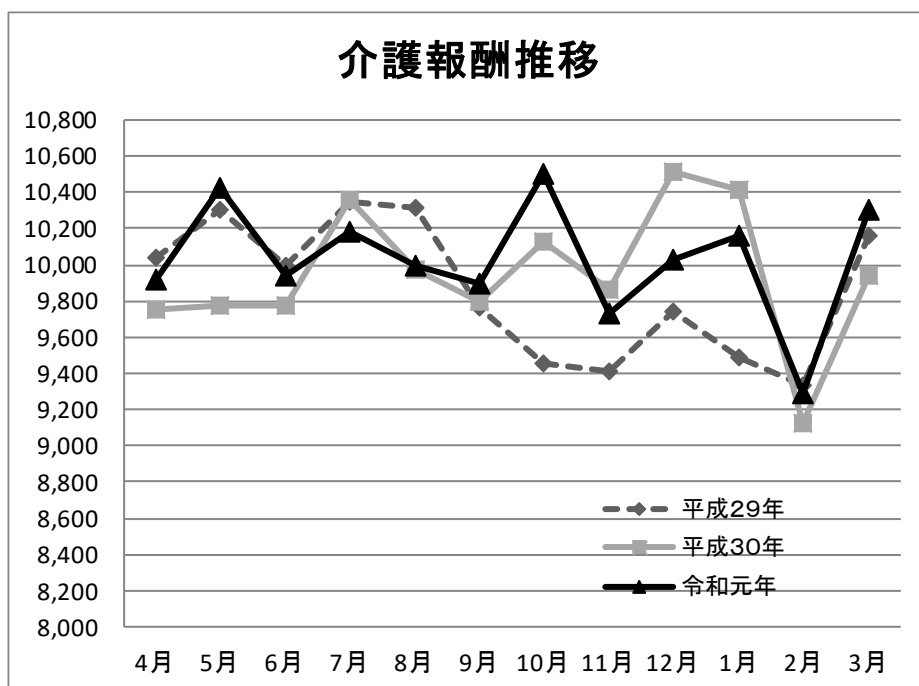
(1) 入所・退所状況

(定員30名)

	当月 1日	新規入所者				退所者						
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4	29		1		1							0
5	30		1		1						1	1
6	30				0					1		1
7	29	1	1		2					1		1
8	30				0							0
9	30		1		1					1		1
10	30				0							0
11	30	1			1					2		2
12	29	1			1							0
1	30				0							0
2	30				0					1		1
3	29	2			2					1		1
計	356	5	4	0	9	0	0	0	0	7	1	8

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位(千円)



Ⅲ. 認知症対応型共同生活介護事業

「グループホーム梅本の里」

【令和元年度のまとめ】

1. 総評

入居者との関りを増やすためにこれまでの業務内容を見直し、アクティビティーの充実と役割づくり、認知症ケアの専門性向上に重点を置いた活動を実施した。

アクティビティーの充実と役割づくりにおいては一定の成果は得られたが、認知症ケアの専門性向上に関しては計画的な実施に至らず、思う様な成果を得られず、課題を残す1年となった。

2. サービス目標

①アクティビティーの充実と役割づくり

今まで業務優先の勤務形態から業務の見直しを図り、アクティビティー委員会を主として、毎日2回の体操と季節の歌の歌唱実施や手先を使う掲示物の作成等、生活リハビリにも繋がるアクティビティーを考案し、日々の生活が退屈に感じないことに取り組んだ。

しかし、利用者の身体機能には差があり、下肢筋力や認知機能など身体機能の低下が顕著となっている方もいるため、生活リハビリにおいては個々の能力に合わせた実施の必要性を感じている。

役割づくりについては、一人ひとり出来ることを支援しながら、無理強いせず、入居者一人ひとりの状態に配慮し、気持ちよく実施できるよう声掛けを行った。入居者の中には率先して行ってくれる方や声掛けしても断られる方もいる為、職員が間に入り一人ひとりに役割が分担できるよう取り組んだ。

②認知症ケアの専門性を高める

地域包括支援センター主催で小野・久米地区のグループホームが集まって行うグループホーム交流会の研修に毎回2~3名の職員が参加し、学びと情報交換の場とした。研修に参加できなかった職員に対しても研修資料の配布や口頭で報告することで知識の共有を図った。

ただ、目標としていた年2回の事業所内勉強会については、資料の準備に手間取り、年1回の開催となってしまった。

③居住環境の整備

居室の改修については退去時に順次、改修を進めているところであり、令和元年度においては1件の居室改修と身体状況にあった手摺りへの交換を実施した。

3. 利用率

目標を1.0ポイント下回る利用率96.0%という結果となり、前年度比においても1.1ポイント減となっている。

大幅減の要因としては、長期入院から退去となるケース続いたことと、2月以降に退去となった居室の改修を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、居室改修が延期となり、新規入居に繋げることができず長期で空室が出たことが挙げられる。

(作成責任者：グループホーム梅本の里 管理者 佐伯 誠治)

1. 事業概要

(1) 施設名 グループホーム 梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6,005.98 m² (特養・ゆにっと併設)

建物 719.50 m² (鉄筋コンクリート造り 3 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室 1	16 室	196.32 m ²	洗面所 1	16 室	40.32 m ²
居室 2	2 室	35.32 m ²	洗面所 2	2 室	5.36 m ²
押入	18 室	14.58 m ²	洗濯室	2 室	17.68 m ²
事務室	2 室	14.58 m ²	倉庫	2 室	47.05 m ²
食堂	2 室	118.5 m ²	トイレ	4 室	10.00 m ²
リビング	2 室	28.05 m ²	調理室	2 室	14.72 m ²
浴室	2 室	13.12 m ²	その他		122.6 m ²
脱衣室	2 室	10.10 m ²			
休憩室	1 室	31.20 m ²			

(4) 居室の状況

区分	室数	床面積	一人当面積
個室 1	16 室	249.60 m ²	15.60 m ²
個室 2	2 室	42.30 m ²	21.15 m ²
計	18 室	291.90 m ²	16.22 m ²

2. 入所者の状況

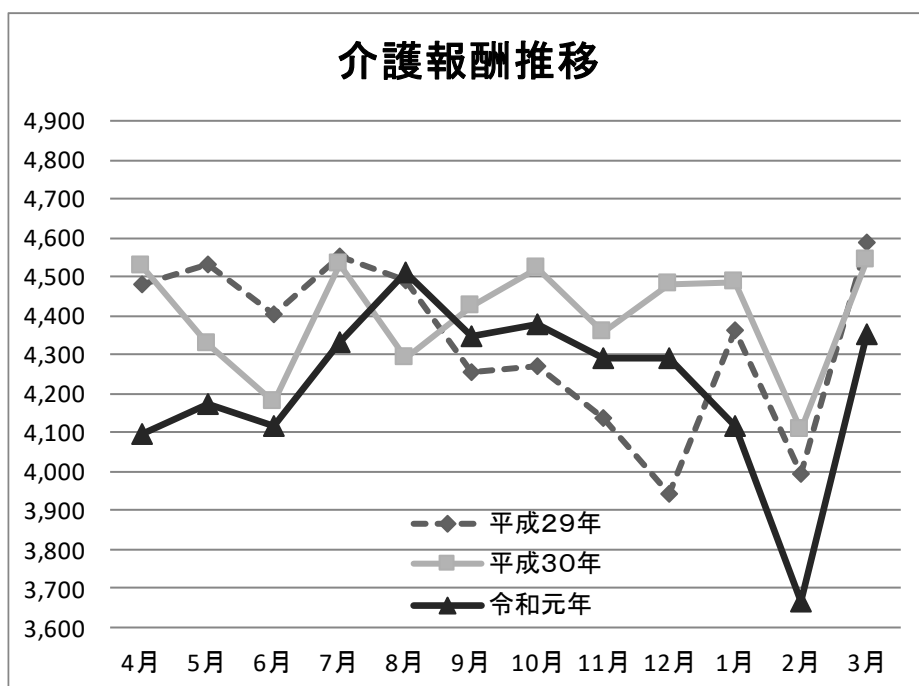
(1) 入所・退所状況

(定員18名)

	当月 1日	新規入所者				退所者						
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施設 へ 転出	死亡	その他	計
4	18		1		1					1		1
5	18				0			1				1
6	17				0							0
7	17	1			1							0
8	18				0							0
9	18				0							0
10	18				0							0
11	18				0							0
12	18				0							0
1	18				0					1		1
2	17	1			1							0
3	18				0			1				1
計	213	2	1	0	3	0	0	2	0	2	0	4

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位(千円)



Ⅳ. ケアハウス事業

「ケアハウス梅本の里」

【令和元年度まとめ】

1. 総評

前年度より継続して、入居者間の良好な人間関係の構築と維持に繋がる援助を目指して取り組んだ結果、入居者間での助け合い支え合いの関係や良好な人間関係に繋げることができた。

今年度末時点での介護保険サービス利用者は昨年同時期より 3 名減少し 26 名となり、減少はしているものの、入居期間が長期に及ぶ入居者の身体機能及び認知機能低下の重度化は著しくなっているため、ケアハウスでの生活が維持できるよう身体機能及び認知機能低下防止に繋がる定期的な施設内行事と外出行事を開催し、入居者個々に声掛けを行い、行事への参加を促すことで意欲向上と自立機能向上に繋げることに努めた。

ただ、長期入居者の身体・認知機能の低下もさることながら、新規入居者についても身体や認知機能の低下がみられる方も多く、早期にケアハウスでの自立生活に課題がでるケースも多くなっているため、ケアマネと連携し、必要な介護サービスを提供することでケアハウス生活の維持に努めているが、自立生活が可能な方の入居施設である本来のケアハウスの役割からは課題を残す部分が多い状況となっている。

2. サービス目標

①食事メニューの充実

食事に対する意欲の増進と満足度の向上を図るため、運営懇談会において食べたいメニューのアンケートを実施する予定であったが未実施に終わった。

又、食事については居室への持ち帰りを禁止しているにも拘らず、提供した食事を持ち帰る入居者が多くなった為、持ち帰り禁止の徹底と理解に時間を要する形となった。

2 回以上の開催を目指していた入居者と職員による手作り料理は 2 回実施し、入居者間や職員とのコミュニケーションの場となり、好評を得ることができている。

②グループ活動

少人数のグループに分け、食堂の壁装飾の作成を年 4 回開催することを目標としたが、3 回の実施に終わった。

ただし、活動についてはグループ単位で個別に声掛けすることで、自室にこもりがちな入居者の参加を促すことができた。又、少人数グループで開催することにより、職員も細やかな対応ができ、役割作りと完成の達成感に繋げることができている。

③ティータイム

2 ヶ月に 1 回の開催（年 6 回）を目指したが、身体機能の低下から参加を見合わせる方、又、介護サービスの利用時間と他行事との日程調整が影響し、年 4 回の開催となった。

3. 利用率

入居者の身体・認知機能の低下も著しい中でも、ケアマネとの情報共有により介護保険サービスを提供することでケアハウスの生活維持に努めたが、入院、他施設サービスへの移行等により今年度は 12 名の退去者があった。

ただ、インターネットサイトを活用した空室状況の掲載や、地域包括支援センターや他の居宅事業所、松山市介護保険課からの問い合わせに対し、ケアマネと連携を図り迅速な対応を行い 11 名の入居に繋げたことで、利用率は 96.9%の結果を残し、目標を 1.9 ポイント上回ることができた。

(作成責任者：ケアハウス梅本の里 相談員 一井善光)

1. 事業概要

(1) 施設名 軽費老人ホーム（ケアハウス）梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 1,027.00 m²

建物 1,888.03 m² (鉄筋コンクリート造り 5 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	30 室	675.90 m ²	機能訓練室	1 室	252.45 m ²
食堂	1 室	82.92 m ²	更衣室	1 室	8.11 m ²
浴室	2 室	67.67 m ²	娯楽室	1 室	86.05 m ²
洗面脱衣所	1 室	35.64 m ²	談話室	2 室	52.88 m ²
洗濯室	1 室	82.73 m ²	その他		390.79 m ²
トイレ	8 室	66.89 m ²			
事務室・相談室	2 室	48.7 m ²			
宿直室	1 室	12.04 m ²			
ゲストルーム	1 室	10.56 m ²			
会議室	1 室	14.7 m ²			

(4) 居室の状況（デイサービス部分含む）

区分	室数	床面積	居室付属設備			
			洗面所	便所	調理設備	その他
個室	30 室	675.80 m ²	有	有	有	

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員30名)

	当月 1日	新規入所者				退所者					
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施 設へ 転出	死亡	計
4	30				0		1				1
5	29			1	1				2		2
6	28	3			3			1	1		2
7	29	1			1				2		2
8	28	1	1		2				1		1
9	29				0						0
10	29	1			1						0
11	30				0			1			1
12	29	1			1				1	1	2
1	28	2			2						0
2	30				0			1			1
3	29				0				1		1
計	348	9	1	1	11	0	1	3	8	1	13

(2) 介護認定による内訳

(令和2年3月31日現在)

	自立	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	計
65～69歳		1	1						2
70～74歳		1		1	1				3
75～79歳		1	1		1				3
80～84歳	2	2	2	3		1			10
85歳以上	1	2	1	5	1				10
入所者計	3	7	5	9	3	1	0	0	28

内訳：男性 8名 平均年齢 男性 79.5歳

女性 20名 女性 82.8歳

V.短期入所生活介護事業

「短期入所生活介護 梅本の里」

【令和元年度のまとめ】

1. 総評

年度途中で生活相談員交代があり、業務の引き継ぎや利用者、家族、関係各所との信頼関係を再度構築することもあり、サービス提供や居宅介護支援事業所へのPR等が不安定となった部分があった。

利用者に対しては在宅生活の維持を基本にサービス提供を実施したが、職員異動による業務の引継ぎに時間を要したこともあり、利用者や家族の満足度向上には繋げにくかった1年となってしまった。

2. サービス目標

①感染予防

特養同様、感染症対策については早い段階からマスクの着用、手指消毒、換気と除菌を意識付けして実施する事が出来た為、感染症の蔓延は無く、ショートステイの受け入れの中止するような事態にはならず、目標を達成できた。

②野外活動

借用地での菜園や外食を計画していたが、利用者の身体状況や借用地の形状から実施は不可能と判断し、年度途中で借用地の契約を解除したため目標の達成には至らず、他の野外活動の構築もできなかったことから課題を残した1年となった。

3. 利用率

1月頃より定期利用者の減少とロングショートの利用者が増加したことから、短期の空室日の利用設定が難しく、利用率の低下に繋がったことが影響し、目標利用率90%に対し86.9%(11床)の利用率に留まり、目標達成に至らなかった。

(作成責任者：特別養護老人ホーム梅本の里 相談員 兵藤研也)

1. 利用状況

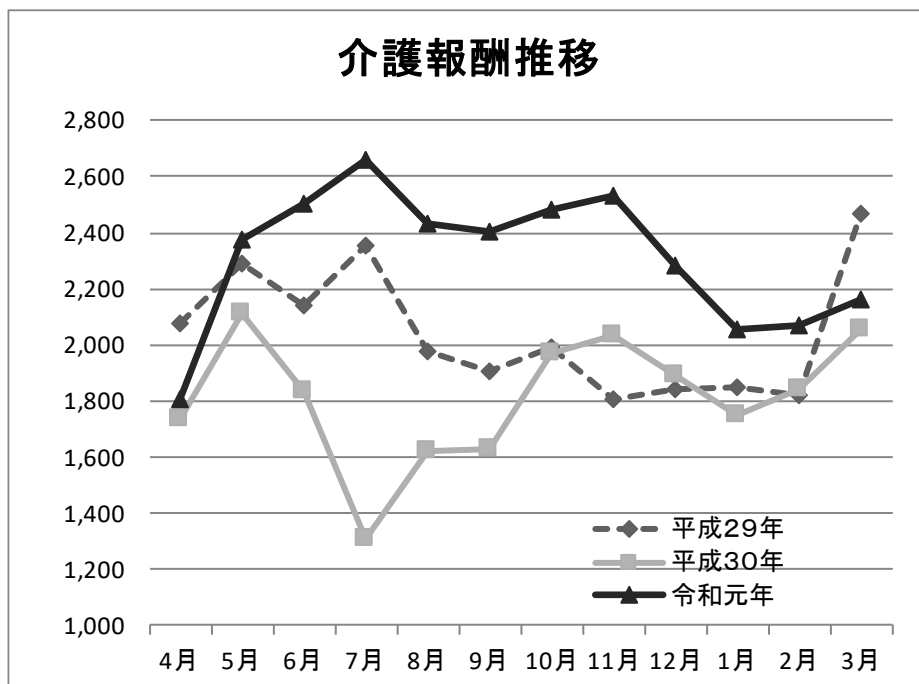
(1) 利用実績表

(定員 11 名)

	介 護 保 険 利 用									利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)						
				要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
4	19	225	7.5	1	0	3	9	3	3	68.2
5	24	290	9.4	1	1	4	11	5	2	85.0
6	23	308	10.3		0	4	11	5	3	93.3
7	24	319	10.3		2	1	12	6	3	93.5
8	23	289	9.3		3	3	9	5	3	84.8
9	23	287	9.6		2	4	10	5	2	87.0
10	26	297	9.6	2	2	2	11	6	3	87.1
11	24	300	10.0	1	4	1	9	5	4	90.9
12	25	309	10.0	1	5	1	9	5	4	90.6
1	22	278	9.0	2	2	2	9	4	3	81.5
2	19	272	9.4	2	3	2	7	1	4	85.3
3	17	285	9.2	1	1	3	6	3	3	83.6
計	269	3,459	9.5	11	25	30	113	53	37	85.9

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位 (千円)



「ショートステイ 梅本の里ゆにっと」

【令和元年度のまとめ】

1. 総評

「在宅生活の維持・継続」を念頭に置き、生活リハビリやできる限り出来ることは自分でしてもらうことに取り組んだ。又、可能な場合は現場職員が送迎を行い、送迎時に家族との関わることで情報共有を図り、信頼関係を築くことで利用者のケアに繋げた1年となった。

ただし、特養同様、目標としていた24時間シートの活用には至らず、利用者ケアに活かせなかった課題が残っている。

2. サービス目標

①24時間シートの活用

24時間シートの活用に至らず、利用者の在宅習慣の把握や分析にも繋がられず、多くの課題を残すこととなった。

②職員の資質向上

職員間の情報共有については、職員会議や申し送り時において伝達の必須事項を確実に伝達することで情報の共有は図ることができた。

ただし、職員会議やリーダー会での決定された事がいつの間にか曖昧になることも多く、特養ゆにっとを含めた全体での決定事項の共有プロセスの構築については課題を残した。

又、2年目を迎える「梅星制度」により、各職員の知識と技術の向上と統一化は見受けられるが、在宅事業であるショートステイのみの経験しかない職員については、「看取り介護」への知識が貧しいことがあり、部署内における研修範囲の見直しの必要性を感じる1年となった。

3. 利用率

令和元年12月頃まではほぼ目標どおりを推移していたが、1月頃より施設入所に移行された方があったこと、3月には新型コロナウイルスの影響により新規利用について慎重にならざるを得なかったことや、利用を見合わせる方が増加したことが影響し、目標より2.6ポイント減の利用率88.4%の結果となった。

(作成責任者：特別養護老人ホーム梅本の里ゆにっと 相談員 仲村竜哉)

1. 利用状況

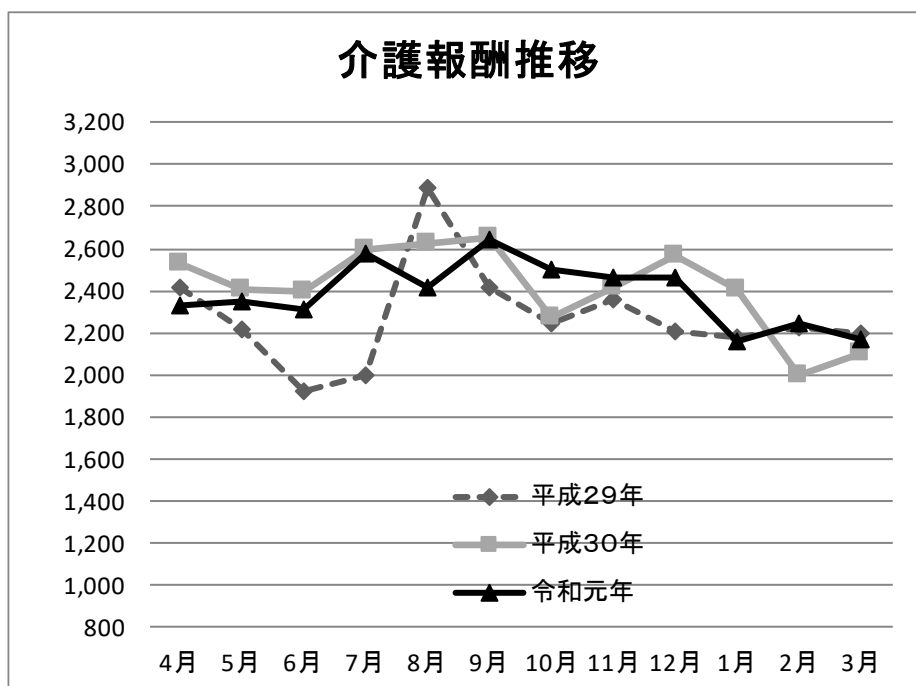
(1) 利用実績表

(定員10名)

	介 護 保 険 利 用									利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)						
				要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
4	22	249	8.3	4	1	8	3	4	2	83.0
5	24	259	8.4	3	4	7	5	3	2	83.5
6	22	267	8.9	3	5	7	4	1	2	89.0
7	24	282	9.1	2	6	7	4	2	3	91.0
8	23	289	9.3	2	5	5	5	3	3	93.2
9	23	295	9.8	2	4	6	4	4	3	98.3
10	22	286	9.2	3	4	4	7	2	2	92.3
11	19	280	9.3	3	3	3	5	3	2	93.3
12	17	269	8.7	2	2	2	5	3	3	86.8
1	17	240	7.7	3	3	2	6	2	1	77.4
2	19	257	8.9	2	4	3	6	3	1	88.6
3	17	246	7.9	2	3	3	6	2	1	79.4
計	249	3,219	8.8	31	44	57	60	32	25	88.0

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位(千円)



Ⅵ.通所介護事業

「通所介護事業 梅本の里」

【令和元年度まとめ】

1. 総評

「新たなチャレンジ、今こそ抜本的な改革の時」を基本方針とし、集団レクリエーション主体のサービス提供から個別・グループケアへの転換を図る為、職員の意識改革を含め、抜本的なサービスの改革を目指したが、新たなサービスへの転換に対する職員の姿勢も消極的な部分があり、次年度に予定されている「ごちゃまぜ福祉」の中におけるデイサービスの構築については多くの課題を残す結果となった。

利用者に対しては、委員会での様々な意見を集約し、リハビリ体操の強化や選択レクリエーションの充実により、改善が図れたサービスもあり、利用者の意欲向上には繋げることができている。

又、利用者ニーズに応える為、日々のカンファレンスを通して新たな行事の実施や環境を整えたことから、利用者の満足度を高めることができた。

2. サービス目標

①選択レクリエーション、個別・グループケアの実施

グループケアの実践として、利用者が自己選択・自己決定できる様メニューを提供し、好きな時に好きな事ができるサービス提供に取り組んだ。手作業や脳トレ、運動等の活動が選択できる様テーブルごとにブースを設け、自由に移動できる空間をつくった。

しかし、メニューのマンネリ化や、個別・グループケアに対して職員の意識統一を図ることができなかった為、利用者本位のサービスへの転換には至らず、内容が伴わない結果となり課題を残した。

②多目的室を活用

小グループで活動できる環境として、多目的室を活用し気軽に出入りできる場所の提供を目指した。テレビを設置しカラオケや映画放映等での選択レクを実施したが、一年を通じての活動には至らず、グループケアでの空間活用として課題が残った。

③食事サービスの充実

毎月、職員の手料理や行事食、手作りおやつ等を実施し、デイルーム内で調理した、出来立ての料理を提供することで利用者満足を高めた。又、調理過程を利用者と一緒に行う事で、やりがいや役割づくりに繋がった。

④新たな取り組みの発信

デイサービス独自の案内パンフレットに新しい行事や活動内容をその都度掲載し、定期的に居宅介護支援事業所や医療連携室等、事業所回りを行った。梅本の里の取り組みや特徴を、顔を合わせながら伝える事で信頼関係を築き、新規利用者の紹介に繋がった。

3. 利用率

他事業所へのアピールを強化したものの、梅本の里独自の特化したサービスの提供を確定できなかったことから、方針の明確化に至らなかった。

年度末にはご自宅での転倒や持病の悪化等により、急遽入院されるケースや、コロナウイルスの影響で利用を見合わせるケースが増加し、利用率にも影響することとなった。

ただし、定期的に事業所回りを実施していたことによる新規利用者獲得に繋がったことや、これまでの信用信頼から梅本の里のデイサービス利用を強く希望された方も多くあったことで、利用率 30 名／日の目標は達成する事ができた。

(作成責任者：通所介護事業梅本の里 所長 野中康志)

1. 利用状況

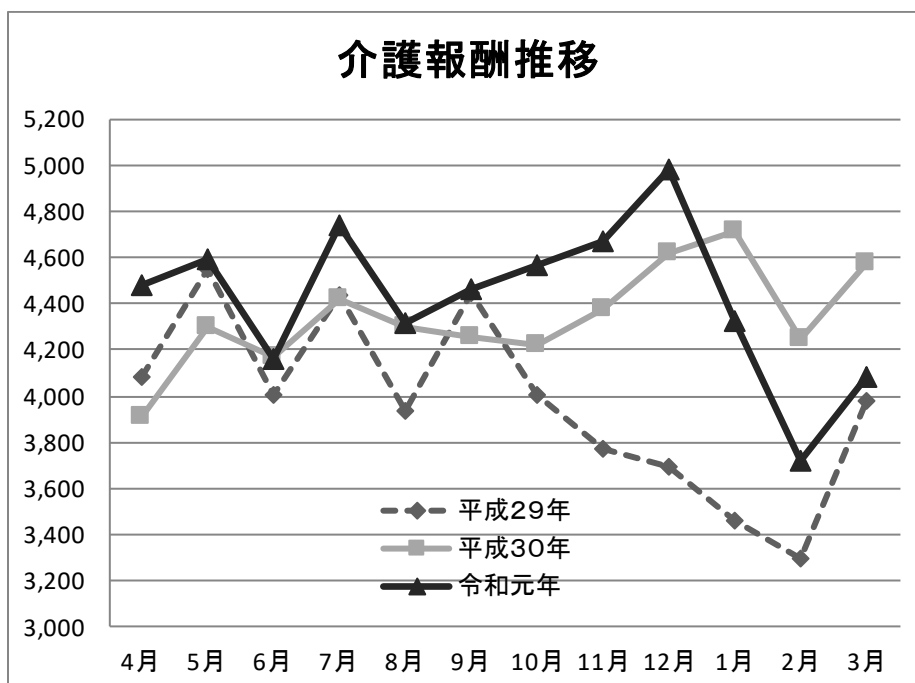
(1) 利用実績表

(定員 55 名)

	介 護 保 険 利 用										利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)							
				要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	
4	71	784	31.4	13	6	24	12	11	4	1	57.0
5	69	781	28.9	10	6	26	12	10	4	1	52.6
6	71	731	28.1	10	7	27	12	10	3	2	51.1
7	73	814	31.3	9	8	29	12	10	3	2	56.9
8	73	744	28.6	10	7	29	11	12	2	2	52.0
9	72	775	31.0	11	7	27	13	9	3	2	56.4
10	75	797	29.5	11	9	26	13	10	4	2	53.7
11	75	828	31.8	11	10	27	12	10	3	2	57.9
12	75	864	34.6	11	10	27	12	9	4	2	62.8
1	75	804	30.9	10	9	26	13	10	5	2	56.2
2	72	678	28.3	10	9	25	13	8	5	2	49.3
3	65	749	27.7	8	10	21	13	6	5	2	50.4
計	866	9,349	30.2	124	98	314	148	115	45	22	54.7

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位 (千円)



「デイサービスセンター梅本の里・小梅」

【令和元年度まとめ】

1. 総評

開設当初からの独自サービス施設内通貨（うーめ）をツールに、『自己選択・自己決定・自己実現ができるデイサービス』をコンセプトに、その人らしさを尊重し充実感を持つことのできるサービスを提供した。

利用者一人ひとりの本質やニーズを引き出すにはまだ課題が残されているが、小梅の区画された空間を活かしたプログラムの実施により満足度や充実感を高め、在宅生活継続をサポートするサービスの提供ができています。

施設整備においては畳スペースの畳交換を目指していたが、空調機器等の早急な修理や修繕が必要なところの整備を優先した事で、利用者スペースの修繕による快適化には至らなかった。

小梅の地域での役割については、駄菓子屋やエントランスホール、地域行事や学校行事においての有効活用が定着し、地域コミュニティの場としての役割を継続して果たす事ができている。

2. サービス目標

①向上心が持てる職場づくり

日々の検討会で、利用者への新たな対応の気付きや送迎時の普段と異なる状況、家族からの些細な情報を共有し、統一した対応の継続ができるよう取り組んだ。又、利用者対応にて職員個々の判断が求められるケースについては、職員会議等で意見交換及び再検討する事で利用者へのサービスの質や職員のスキルアップ向上に繋げた。

これらの取り組みを実施した上で利用者の対応について、家族に状況を把握していただき、協力と理解を得ながら、より安心できる事業所となるよう努めた。

職員の面談については3ヶ月に1回の実施を予定していたが、定期的な職員面談の開催には至らなかった。ただし、日頃からコミュニケーションを図ることに努め、職員の状態の変化に応じ面談を行うことで、ストレスや悩みを相談できる環境をつくり、働きやすい職場環境となることとした。

②施設内通貨「うーめ」を活用した新たな挑戦

開設当初から継続する小梅独自のサービス施設内通貨「うーめ」であるが、改めて常備する仕組みづくり、「うーめ」取り扱い上のルールの再認識や在り方、日頃からのQOL向上に繋がる取り組みなど存在価値を高める事に着手した。

施設内通貨（うーめ）収支プログラムは、バイタルサイン把握や服薬管理・可能な動作が継続できるマイセルフケア、QOL維持向上により生活を支える生活リハビリの継続やリハビリ機器でのトレーニング、家事・炊事・子守りなどの役割づくり、手先の運動や脳の思考により病気を予防する脳トレーニング、駄菓子の値札貼りや清掃など職員の手伝い、年5回期間限定の余剰品売店、希望を叶える個人企画、趣味や特技を生かしたクラブ活動を実施し、満足度に繋がる結果を残せたと感じている。

その半面で小梅独自のアセスメントシート「あゆみシート」の見直しや活用については一部の利用者に留まってしまった。

又、新たな取り組みとして目指していたアイランドキッチンを活用した料理持ち帰りサービスは、通常の業務の中で活動する事の難しさ、「うーめ」を活用してのシステムの構築ができず、実現に至らなかった。

ただし、それに代わる新たな料理企画として「四季行事やお楽しみ料理」や「手作りおやつ」に取り組み、利用者と職員が共同作業で手作りのプロセスを楽しんだり、仕上がりや実食での喜びを分かち合うなど、やりがい共有する場となった。

③目指すべき小梅としての役割

エントランスホールに設置している駄菓子コーナーには地域の子供達をはじめ家族3世代での利用、保育施設や障がい者施設の利用、同業他事業所からの利用が盛んにあったことや、地域の子供たちがエントランスホールを宿題等で利用するなど、集いの場としての役割を果たしていることや、地域の年間行事での会議、小中学校からの見学やボランティア活動、ONOスポーツクラブや小野ソフトクラブ愛好会等活動の場としても継続して活用いただき、地域コミュニティの場としての役割も担うことができた。

又、副市長を含む松山市担当課職員や市内・県外の社協から見学に訪れるなど、「小梅」の活動に対して興味を持っていただいたことや、秋には“「松山市小野地区」の旅“というテーマで地元テレビ放映があり、地域の様々な人が集う、小さな「ごちゃまぜ福祉」の場としての周知にも繋がったところである。

これらの活動を通じて今年度においても、多くの地域住民の方に愛され支えられた小梅の1年となっている。

3. 利用率

サービスの質の向上を目指し、日々の課題に向き合い柔軟に対応する事を心がけた結果、利用者の満足度や充実感を高めることに繋がった1年と感じる。

冬季に拡大する感染症予防においては、変調時における早期発見・対応、個々の手洗い・うがい・咳エチケット、事業所内の消毒・換気・掃除等努めたことで感染症の蔓延を防ぐ事ができた。

又、利用者・家族・ケアマネージャーと情報を共有することで、安心できる事業所運営に繋がれたことから、目標利用率38名／日に対し39名／日の結果を残すことができた。

(作成責任者：デイサービスセンター梅本の里・小梅 所長 稲荷衆一)

1. 利用状況

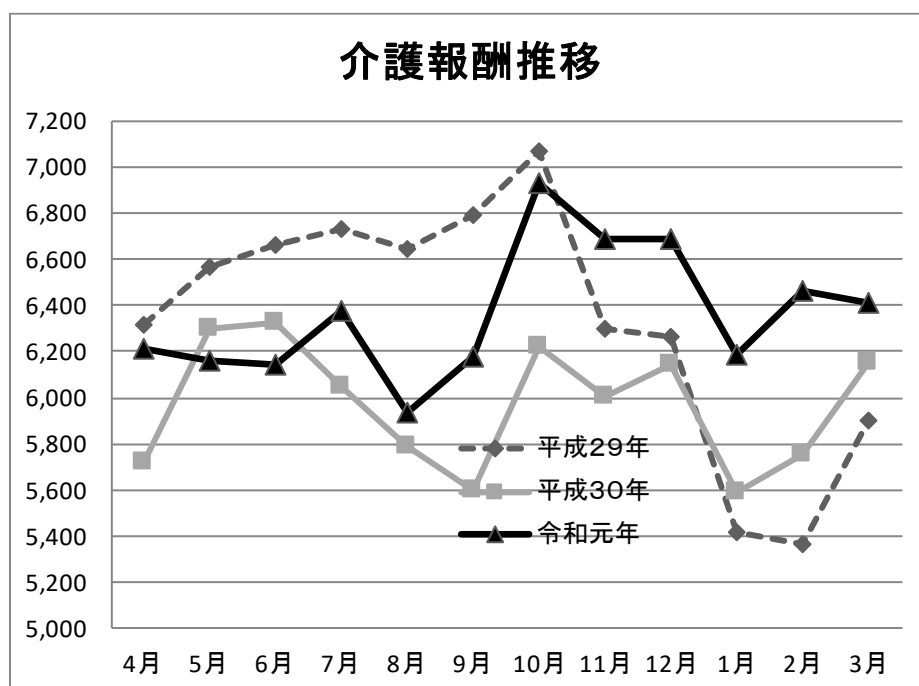
(1) 利用実績表

(定員 45 名)

	介 護 保 険 利 用										利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)							
				要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	
4	104	991	39.6	20	10	38	24	5	4	3	88.1
5	106	988	36.6	20	10	41	22	5	5	3	81.3
6	107	972	37.4	19	11	40	23	5	6	3	83.1
7	108	1,047	40.3	21	12	41	21	4	6	3	89.5
8	108	984	37.8	20	12	42	19	5	8	2	84.1
9	104	965	38.6	19	12	40	18	5	7	3	85.8
10	105	1,098	40.7	18	11	46	16	5	7	2	90.4
11	107	1,092	42.0	19	11	48	15	6	7	1	93.3
12	111	1,070	42.8	20	12	47	17	6	8	1	95.1
1	105	978	40.8	20	11	44	16	5	8	1	90.6
2	102	1,017	42.4	20	12	40	16	5	8	1	90.4
3	98	1,013	37.5	20	12	35	16	7	7	1	83.4
計	1,265	12,215	39.7	236	136	502	223	63	81	24	71.9

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位 (千円)



VII.訪問介護事業

「訪問介護事業」

【令和元年度まとめ】

1. 総評

今年度は異動による新しい人財を迎え、サービス提供責任者の育成を主とした年であり、資格取得や現場・事務所業務の習得を経て、無事、退職を迎えるサービス提供責任者からの引き継ぎを完了できた。

登録ヘルパーについては永年勤続者が多く、知識・技術ともにベテランとなる職員が多いが、常に向上心が保てるよう継続的に学習する機会が設けられるよう、月1回は全員が集う場（ヘルパー会）で新しい知識の習得ができる事業所内研修を開催した。

又、ヘルパー会では同時に、利用者の状況把握や共通した目標など、サービスの質を向上させるための連絡会をもち、情報共有に努めた。

ヘルパー会以外に職員間の交流・コミュニケーションを図る機会として事業所独自の会の開催を目指したが、この目標に関しては実現出来なかった。

常勤職員が4名となった年で、利用者数・件数ともに前年度より増加したものの、全体的に要介護者が減り、要支援者が増加したため、同じサービス時間を費やしても介護報酬は伸び悩む。今後、要介護者（特に身体介護サービス）を増やすことが必須となっており、そのための人財確保も課題となっている。

2. サービス目標

①人財育成について

サービス提供責任者の交代に向けて、職員異動により前年度末に新しい人財を迎えた。サービス提供責任者を引きぐするためには介護福祉士資格取得のため実務者研修受講や受験の必須であったため、職員間で業務を補い合い、無事資格取得を実現し、目的を達成することができた。同時に訪問介護・サービス提供責任者業務についても、ゼロからのスタートであったが、丁寧な指導と育成を行い1年かけて経験を積むことができたと感じている。

②介護の知識・技術の向上について

個々の目標を明らかにした個別研修計画を作成し、目標達成のために毎月テーマを決めて事業所内研修（ヘルパー会）を行った。その中で梅本の里が実施している梅星制度の課題を自主的に学ぶ機会を設けたり、外部講師の先生にアドバイスを頂きながら座学に偏らない研修内容となるよう心掛けた。

又、常勤職員は可能な範囲で外部研修に参加し、ヘルパー会などで他の職員に内容を伝えるよう取り組んだ。

年度末には新型コロナウイルスの影響で、ヘルパー会の開催ができない状況となってしまったが、新年度においても可能な形を模索しながら知識・技術の向上を図りたい。

③目標・情報の共有について

ヘルパー会と併せて連絡会をもち、1ヶ月に1回登録ヘルパーが顔を合わせ、問題点を全体で話し合って解決に導く機会をつくった。個別の相談が必要なケースではサービス提供責任者が面談し、ヘルパーが孤立して問題を抱えることのないよう心掛けた。

新型コロナウイルスの影響で年度末には連絡会も休止しているが、メール、文書による伝達は継続している。

④職員間の交流・コミュニケーションについて

登録ヘルパーが事業所に立ち寄りやすい環境を整えることを目標としてはいるが、事業所のスペースが狭小で、多くの職員が一同に交流・コミュニケーションを図ることは困難な状況であった。

又、近年、法人全体行事への参加率も低下していることから、部署独自の行事開催を目指したが実現には至らなかった。

3. 利用率

今年度は引継ぎ期間ということもあり、常勤職員が増員状態であったことから、利用件数は前年度より増加している。ただ、要介護者の「生活援助」から「身体介護」へのサービス移行を目標に掲げていたが、利用料の違いやサービス時間の制限もあり、順調な移行は実現出来なかった。又、要介護者より要支援者の増加率が著しく、目標達成には至っていない。

●1年間利用者数

要介護合計 508名 1ヶ月平均 42名

要支援合計 578名 1ヶ月平均 48名

●1年間活動回数

要介護合計 5,868件 1ヶ月平均 489件 1日平均 16件

要支援合計 3,613件 1ヶ月平均 301件 1日平均 10件

(作成責任者：訪問介護事業梅本の里 管理者 荻野桂子)

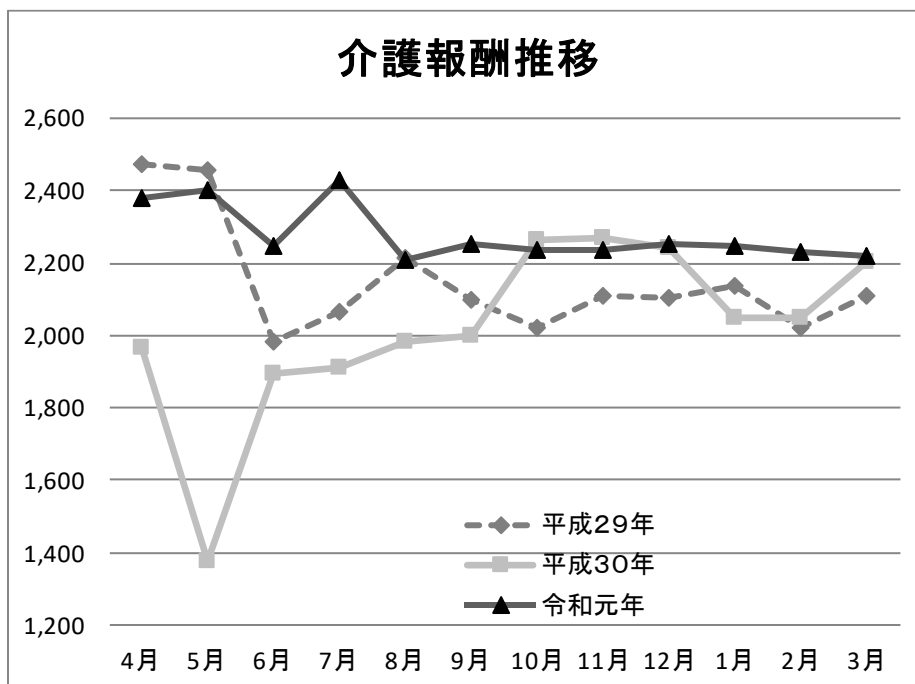
1. 利用状況

(1) 利用実績表

月	実人数	回数	延時間	実人数	
				要介護	予防
4	92	801	799	47	45
5	91	825	806	42	49
6	88	768	765	42	46
7	91	861	790	43	48
8	90	761	722	41	49
9	93	788	724	43	50
10	91	806	770	41	50
11	92	786	779	42	50
12	91	778	737	42	49
1	90	768	747	42	48
2	88	759	743	41	47
3	89	780	793	42	47
計	1,086	9,481	9,175	508	578

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位（千円）



Ⅷ.居宅介護支援事業

「居宅介護支援事業所 梅本の里」

【令和元年度まとめ】

1. 総評

今年度は職員や制度改正の変更もなく、事業所の体制としては安定した1年であった。

昨年度からの支援内容推移の特徴として、安定して在宅生活を継続することが難しくなっていることが影響してか、介護の場合終了件数が新規件数を上回る傾向にある。地域共生社会のビジョンは示されているが、当事者よりも、介護側が抱える問題にどう対応していくのか、生活という24時間・365日をどう想像し、利用者本人のみならず家族も含めての支援（介護者の精神不安定、生活困窮、そこから繋がる経済的虐待、不適切な介護状況等）を考えることが必要となるケースが多く、それを身近に感じさせる出来事が多い一年であった。

その中で、過去の数々の経験が結び付き、活かされることもまた実感した反面、「許容量・対応力の向上」とは、依頼案件が重なった時、或いは調整すべき事柄が重なった時、同時進行で消化する事でもあり、それについては各自の差異を感じる1年でもあった。様々な案件を抱えたとき、同時に消化することの質の担保をどう確保するかの課題は残された。

2. サービス目標

ケアマネ個々の経験値と対応力の向上を図り、相談や依頼に繋げることの具体的な目標を踏まえ、ケアマネ同士のフォロー体制の定着と、その意識を共有出来ることに取り組んだ。今年度はこの取り組みをもって心身の疲弊を防ぎながら、業務が継続できる環境作りを目指した。

①対応力の向上

目標としていた主任介護支援専門員の取得については、研修受講を申し込んだが、人数制限の為、受講が出来なかった。

初回相談・面談の2名対応については、1年を通じ徐々に実施に繋がっていることから、次年度においても継続目標とする。

②方針の将来展望への対応

法人将来の目標である共生型福祉「ごちゃまぜ福祉」を見据えた、共生型サービス事業所の見学を実施できず、事業所全体で取り組むことに対しての計画性について反省点が残った。

③ケアハウスとの連携強化

ケアハウス側からの要望も多く、面談同行は定着しており、入所後の生活安定にも繋がれたと感じている。入居については施設判断となるが、入居生活のより良い判断基準となることを目指し、今後も要望があれば対応していく。

3. 利用率

目標利用率、介護 125 件／月、予防 40 件／月に対し、介護 117.9 件／月、予防 51.4 件／月で介護件数が目標値を下回ったが、予防件数が多くなる結果となっている。

件数総数の目標は達成したものの、将来的に介護となる人を見据え、要支援の依頼を受け続けた結果、前年度比でも介護件数 0.9 件／月減、支援件数 13.1 件／月増と、要支援者の件数が非常に多く、収入に反映されない状況となり、介護と予防件数のバランスに課題を残している。

(作成責任者：居宅介護支援事業所梅本の里 管理者 丹下明子)

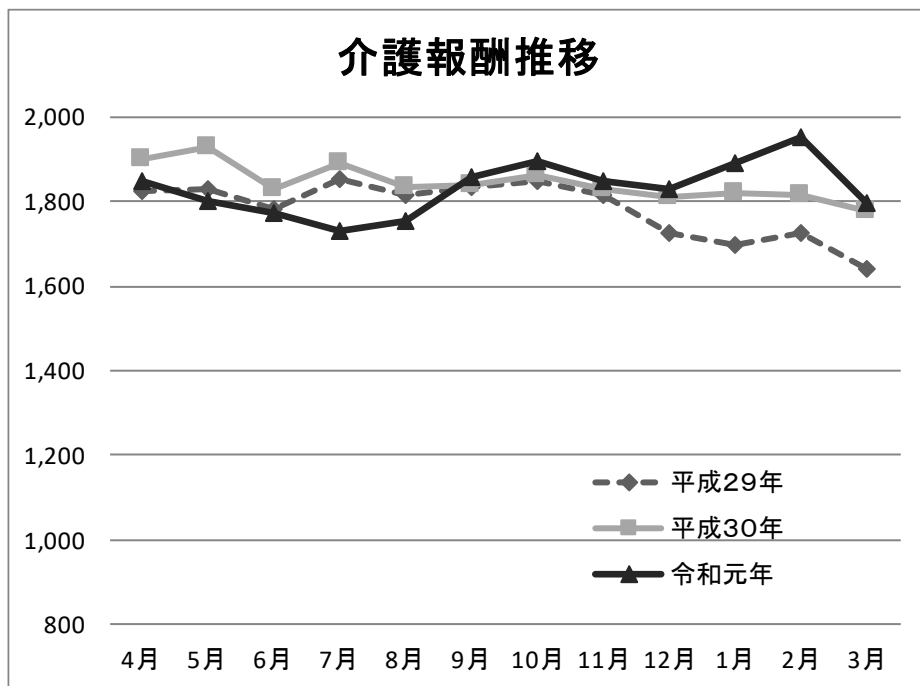
1. 利用状況

(1) 利用実績表

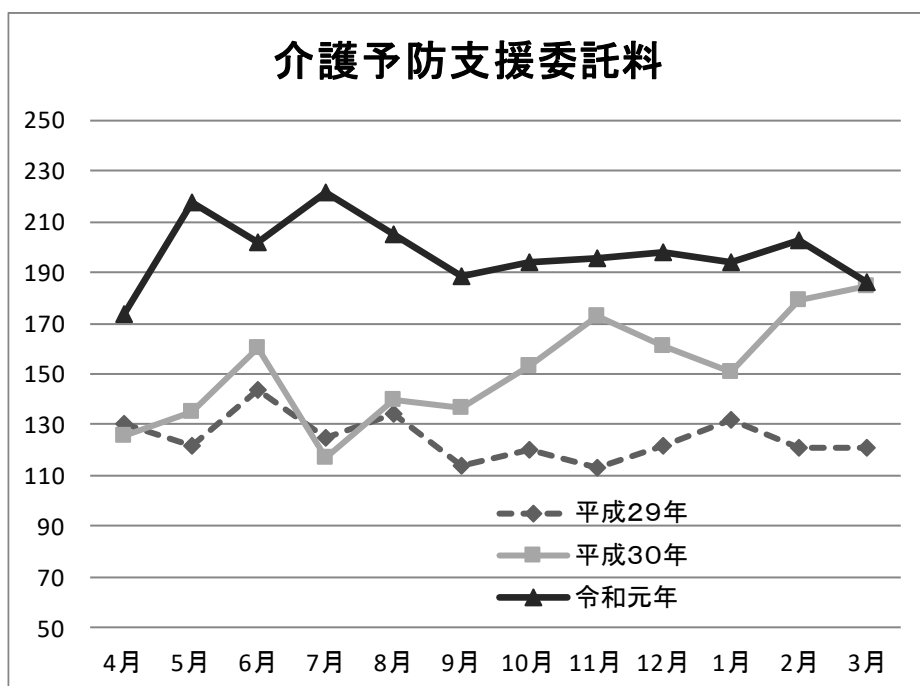
月	件数	要 介 護 度 別 内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4	164	29	17	67	27	11	10	3
5	169	32	21	63	27	11	12	3
6	163	29	23	61	27	8	11	4
7	173	31	25	65	26	9	12	5
8	172	28	26	64	26	10	13	5
9	172	26	25	65	26	10	15	5
10	174	27	24	65	29	10	14	5
11	170	25	26	66	25	11	13	4
12	172	27	24	65	23	12	16	5
1	171	27	23	62	27	13	13	6
2	169	30	23	55	28	15	13	5
3	163	26	23	57	29	12	13	3
計	2,032	337	280	755	320	132	155	53

(2) 保険請求単位年間推移状況

単位 (千円)



単位 (千円)



Ⅸ.その他事業活動

事業所内託児所小梅」

【令和元年度まとめ】

1. 総評

子どもたち一人ひとりの個性を大切に見守りながら、健全な心身の発達が図れるよう各家庭や利用中の状況・育児方針など情報を共有し、発達段階に応じた保育や子どもの自己啓発活動を優先しながら心豊かに成長できる「安心して信頼できる居場所」を展開した。

職員が子育てと仕事の両立できるよう、日曜日以外は開園できる体制を整え、短時間勤務、勤務日以外のリフレッシュ、所用による一時預かりなど、柔軟な対応を行い、安心して就業できる環境を整えた。

小梅託児所ならではの異世代交流においては、デイサービスの利用者と一緒に季節に応じたイベントの開催、余暇時間を同空間で過ごすなど、小梅全体で子ども達の成長を楽しみ喜び、温かく思いやりの心を育める環境の中で、家庭的な保育の実施ができた。

又、地域とのふれあいや外部の子ども達との異年齢交流や集団での関わりなどを体験し、様々な経験を通じての心身の成長を感じることができた。

2. 保育目標

年齢に応じた月間・年間指導計画及び個別での日案・週案を立案し、一人ひとりの利用状態に応じた柔軟な保育を実施した。

少人数である事から、子ども一人ひとりの個性を大切にした上で元気で活発な活動に繋げ、個々の成長に合わせたきめ細やかな保育の実践と思いやりの心を育み、子ども達相互の関係性を築く事ができた。

3. 利用率

今年度は開園日数 288 日、延利用園児 753 名、1 日平均利用 2.6 名であった。

職員にとっては託児所があることで、育児中の方の採用や育休後の復帰ができる環境であり、安心して就業できる環境には繋がっている。しかし、居住地域で集団保育を希望する方も多く、育児復帰者の全員が託児所の利用を望むわけではなく、安定した利用における課題は残されている。

又、開園時間の変更もなく 8 時から 18 時までの間での預かりの為、就業可能な時間は日勤帯のみでの対応となっていることも課題である。

(作成責任者：デイサービスセンター小梅所長 稲荷衆一)

２．松山市高齢者生き生き支援事業

【令和元年度まとめ】

生きがいデイサービス

生きがいデイサービスは、ご利用者の健康と生きがいを支援する目的で行われている事業である。また、梅本の里のご利用者の内、半数以上が地域住民であるため地域に根ざした施設の窓口の一つとして欠かせない事業でもある。

（１）利用実績表

月	生きがいデイサービス		
	実人数	延人数	1日平均人数
4	12	41	2.1
5	12	37	1.8
6	10	35	1.7
7	12	42	2.0
8	11	38	1.7
9	11	40	2.2
10	13	51	2.3
11	13	45	2.1
12	13	50	2.6
1	12	48	2.5
2	12	43	2.2
3	11	44	2.1
計	142	514	2.1

3. 高齢者住宅等生活援助員派遣事業

【令和元年度まとめ】

令和元年度も、地域の方々とよりコミュニケーションを図りながら、安心して落ち着いた毎日が過ごせるように地域や行政機関等と連携しながらの安否確認に努めた。

(1) 利用実績表

月	生活指導 及び相談	安否確認	一時的な 家事援助	関係機関 との連絡	緊急時の 対応	その他の 業務	計
4	180	219	13	2	4	21	439
5	179	218	11	5	4	21	438
6	138	189	1	3	0	20	351
7	192	232	0	5	0	22	451
8	173	214	1	6	2	20	416
9	166	210	1	11	3	20	411
10	190	232	0	7	0	21	450
11	183	225	1	4	1	20	434
12	179	208	6	2	1	19	415
1	156	185	11	3	2	18	375
2	151	179	7	2	2	18	359
3	205	253	14	6	2	22	502
合計	2,092	2,564	66	56	21	242	5,041

X. その他の活動

1. 施設実習受入状況

それぞれ実習の形態・目的等に合わせて、ご利用者との関わり方を理解して頂けるよう丁寧な指導や助言に努めた。又、教える側の職員が成長できるよう、実習生からの積極的な質疑を受け付けるよう取り組んでいる。

期 間	団体名及び個人名	活動内容	人員
H31. 4. 15～4. 26	城南高校福祉科	臨地実習	2 名
R1. 5. 7～5. 9	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3 名
R1. 5. 21	愛媛大学医学部看護学科	フィールドワーク	4 名
R1. 5. 24	河原医療福祉専門学校介護福祉科	施設見学	6 名
R1. 5. 27～5. 28	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3 名
R1. 5. 28	愛媛大学医学部看護学科	フィールドワーク	8 名
R1. 5. 29～5. 30	河原医療大学校看護学科	臨地実習	3 名
R1. 5. 31	河原医療福祉専門学校介護福祉科	施設見学	5 名
R1. 6. 2	介護労働安定センター	施設見学	30 名
R1. 6. 7	河原医療福祉専門学校介護福祉科	施設見学	5 名
R1. 6. 8	聖カタリナ大学社会福祉学科	施設見学	50 名
R1. 6. 10～6. 13	河原医療大学校看護学科	臨地実習	2 名
R1. 6. 14	河原医療福祉専門学校介護福祉科	施設見学	5 名
R1. 6. 21	河原医療福祉専門学校介護福祉科	施設見学	5 名
R1. 6. 25～6. 26	河原医療大学校看護学科	臨地実習	2 名
R1. 7. 16～7. 18	河原医療大学校看護学科	臨地実習	2 名
R1. 7. 9～9. 5	嘉南薬理大学	臨地実習	2 名
R1. 8. 5～8. 19	城南高校福祉科	臨地実習	2 名
R1. 8. 14 8. 19	愛媛大学教育学部	介護等体験	1 名
R1. 9. 3～9. 12	河原医療大学校看護学科	臨地実習	2 名
R1. 10. 3	松山市立小野中学校	総合学習	12 名
R1. 10. 29～11. 19	城南高校福祉科	臨地実習	2 名
R1. 11. 1～11. 8	介護労働安定センター	臨地実習	2 名
R1. 11. 6～11. 19	みなら特別支援学校	臨地実習	1 名
R1. 11. 11～11. 15	松山市立小野中学校	職場体験学習	8 名

R2. 1. 20～1. 24	城南高校福祉科	職場体験	2 名
R2. 2. 25	愛媛大学附属高校	職場体験学習	1 名

合計：延 27 団体 参加人数： 170 名

2. 施設内研修状況（外部講師含む）

今年度は、小児救急医療とアンガーマネジメントを初めて職員研修として取り入れた。

感染症対策も含め、より身近に起こりうることに對する研修を令和 2 年度も力を入れて取り組んでいきたい。

日 時	研 修 名	講師名	対象者	参加者
R1. 5. 14	小児救急医療研修	松山市保健所	全職員	23
R1. 7. 24	感染症対策 (ルビスタ使用方法)	サンメディカル株式会社	全職員	35
R1. 10. 3	アンガーマネジメント 研修	こころ塾	全職員	34
R1. 12. 11	感染症対策 (インフルエンザ対策)	サンメディカル株式会社	全職員	18

合計：参加人数： 110 名

3. ボランティア受入状況

今年も、多くのボランティア団体の方がご訪問してくださり、ご利用者の方々が楽しいひと時を過ごせるように様々な活動を行ってくださった。職員一同、心より感謝を申し上げたい。

令和 2 年 10 月からは新規事業もスタートする予定なので、今まで以上にボランティアの皆様と交流を図り、ご利用者の方々がより楽しく充実した時間を過ごせるようにお力添えをお願いしたい。

	団体名及び個人名	活動内容	年間延 人数
1	青砥喜美 様	手作業・絵手紙教室	22
2	青野 美知子 様	補助	2
3	アンサンブルローズマリー 様	歌・踊り	4
4	愛媛県理容生活衛生同業組合 様	散髪	20
5	オカリナ演奏会 様	音楽演奏会	8
6	沖縄三味線 様	三味線	2
7	お琴を楽しむ会 様	琴演奏	6
8	小野中学校 様	喫茶コーナー	105
9	門屋 征洋 様	施設内ボランティア等	6
10	河原医療福祉専門学校 様	介助ボランティア	6
11	河原医療大学校看護学科 様	介助ボランティア	10
12	北梅本幼稚園 様	歌、踊り	40
13	杉野工務店 様	夏祭り 準備、屋台	10

14	スウィートメモリーズ 様	音楽演奏	22
15	スタートクラブ 様	歌謡ショー	15
16	玉井 秀典 様	ジャグリングショー	2
17	立石純子舞踊教室 様	日本舞踊・夏祭り	53
18	多田 教室 様	民謡	7
19	椿の会 様	歌、踊り	3
20	つぼみ 様	歌・コーラス	11
21	テジール 様	エステ	10
22	トーンチャイムレインボー 様	楽器演奏・歌	15
23	トキアンサンプル 様	歌・踊り	8
24	鳥ノ木フラワーズ 様	歌・踊り	18
25	中田 良子 様	絵手紙教室	22
26	なでしこ 様	音楽演奏	52
27	二神 登美 様	縫物	10
28	二神 重則 様	縫物	10
29	日赤奉仕団 様	セラビューティック・ハンドマッサージ 介助ボランティア	38
30	梅花幼稚園 様	歌、踊り	30
31	はみずき 様	大正琴	5
32	ひまわり会 様	カラオケ	8
33	藤田 晶子 様	書道教室	4
34	平井保育園 様	歌・踊り	50
35	富士産業株式会社 様	夏祭り屋台	4
36	訪問マッサージふわり 様	マッサージ	85
37	舟橋ピアノ教室 小野エコーズ・ソルフェージュ・わかば 様	誕生会コーラス・オペレッタ	124
38	フラダンス なんと 様	フラダンス	10
39	紅好二 様	歌・踊り	5
40	松岡 司志 様	詩吟	39
41	マンダリンパイレーツ 様	レクレーション	2
42	夢物語 様	日本舞踊	55
43	ムチューくん一座 様	歌、踊り	8
44	れぐま 様	セラピー犬とのふれあい	5
45	安平 勝 様	ギター演奏	9
46	ゆめはな会 様	三味線・尺八・歌	7
47	由謡会 様	三味線・民謡	5

ボランティア協力 合計： 47団体 延参加人数： 992名